

広島県大学図書館協議会 平成29年度第1回研修会開催要項

2017.09.13 13:00～17:00広島大学 東千田未来創生センター 2階 M201

---

# 2020年の NACSIS-CAT/ILL

NACSIS-CAT検討作業部会

筑波大学学術情報部アカデミックサポート課 三角太郎



# NACSIS-CAT検討作業部会検討の背景

○作業部会**設置の内規**では、所掌業務は

1. NACSIS-CAT 検討に係る調査
2. NACSIS-CAT 検討に係る各種提案
3. その他 NACSIS-CAT 検討に係る業務

○これから委員会で策定された「これからの学術情報システムの在り方について」では、進むべき方向性としては

統合的発見環境の提供、メタデータの標準化、  
学術情報資源の確保

を挙げ、当面の課題として

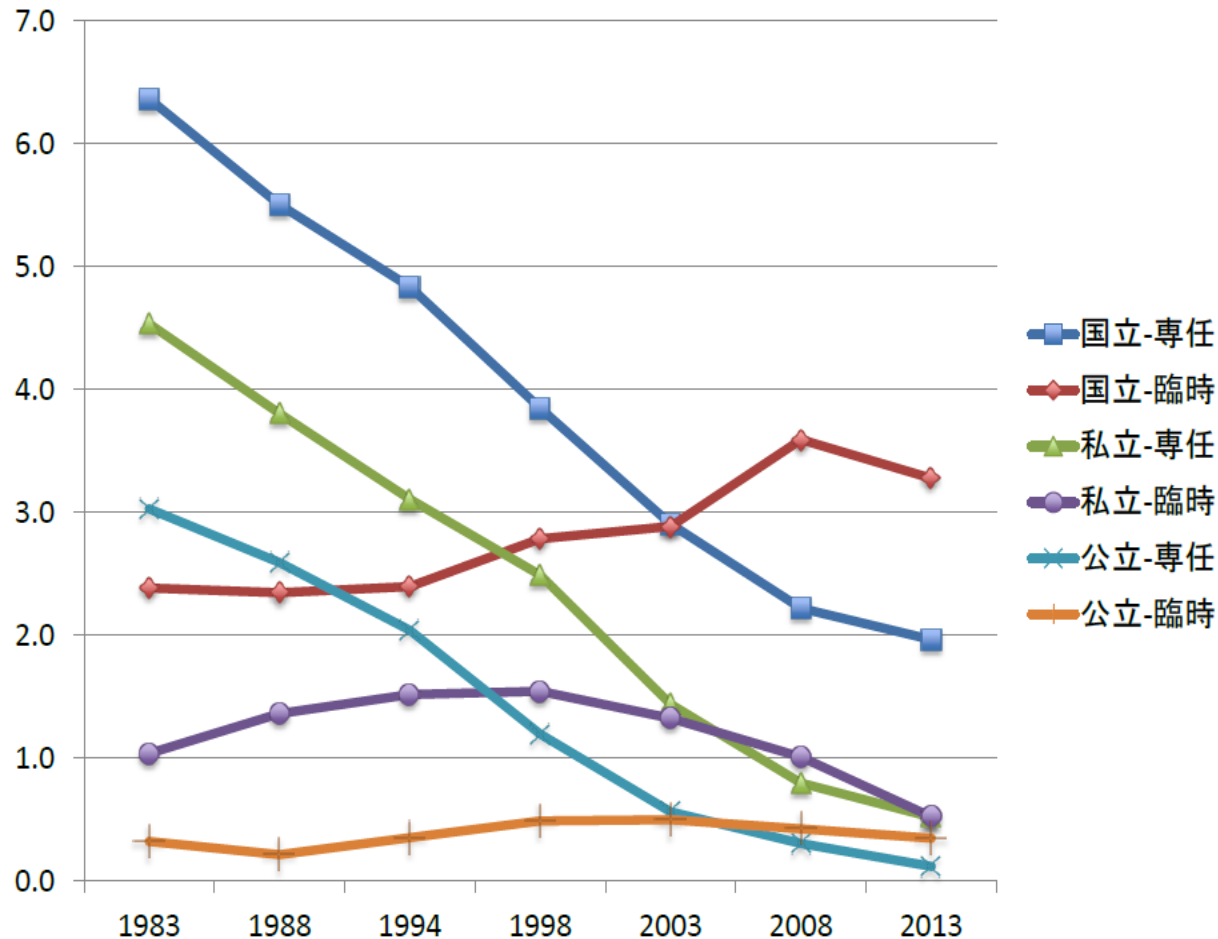
(1) 電子情報資源のデータの管理・共有

(2) **NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）**

を挙げている。しかし、軽量化・合理化が具体的に何を示すのかが記されていないため、やや**唐突な印象**を受けるかもしれない。

# 大学図書館における目録担当者数の推移

## 1大学あたりの平均人数



「NACSIS-CATの再構築」佐藤義則平成28年5月26日. NIIオープンフォーラム講演資料21ページ  
[http://www.nii.ac.jp/csi/openforum2016/track/pdf/20160526\\_CAT\\_1\\_sato\\_y.pdf](http://www.nii.ac.jp/csi/openforum2016/track/pdf/20160526_CAT_1_sato_y.pdf)

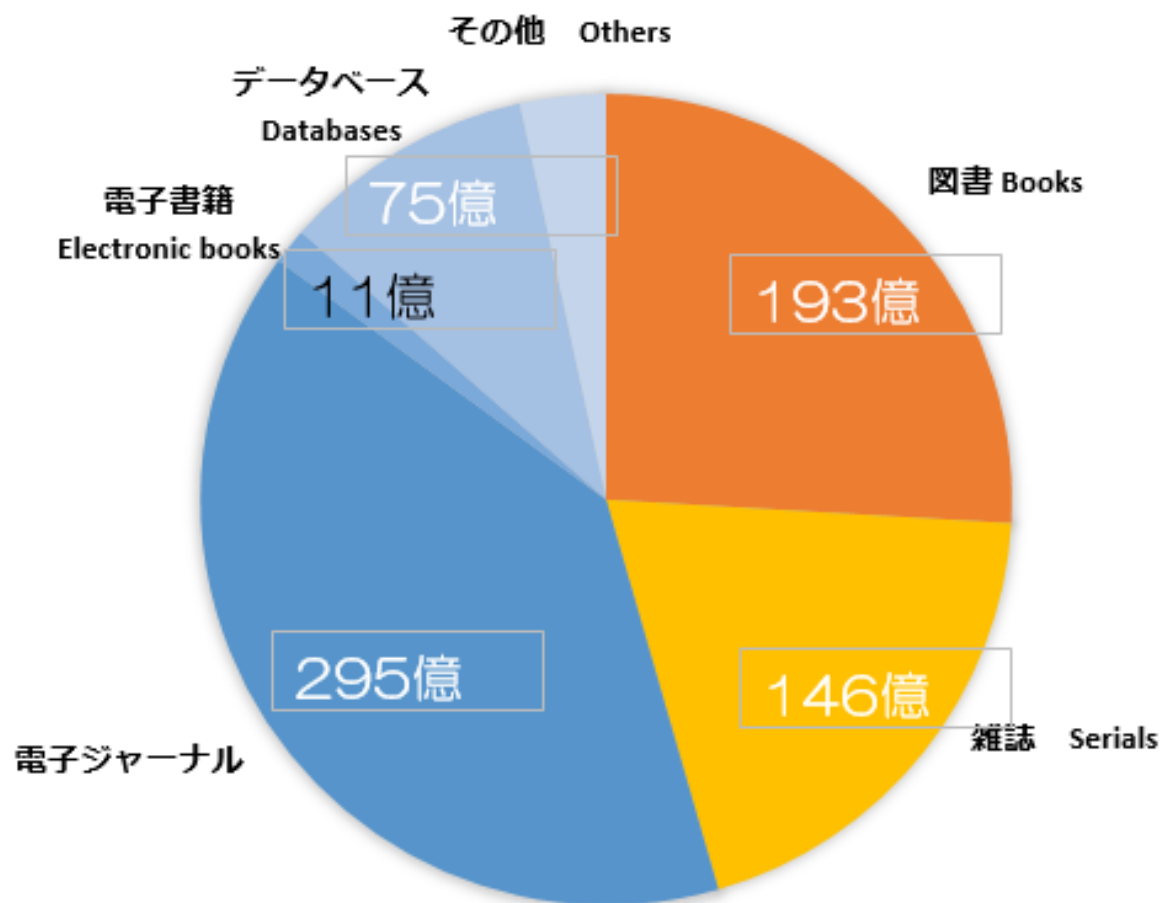
# 電子資料の普及

電子ジャーナル・電子書籍

306億はNACISIS-CAT/ILLの外



リソースの  
有効活用/共有が  
できていない



平成28年度学術基盤実態調査より作成

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Xlsdl.do?sinfid=000031556945>

# NACSIS-CAT検討作業部会検討の背景

○軽量化・合理化については、平成26年12月に国立情報学研究所が提出した「2020年目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL) 再考のための提議」。

## 【現状分析】

「安定運用であるがゆえの施策順位の低下」

「レガシーな事業モデル・運用モデルのコスト」

「大学図書館の参加意識の低下」

「相互理解の不足」

## 【今後の必要性】

理念の再構築

事業モデルの見直し

システムの見直し

大学・大学図書館との連携の一層の緊密化の必要性

「サービスの存続に関して国立情報学研究所が抱いている危機感が図書館コミュニティに共有されていないことも懸念されるところである」など、国立情報学研究所側の危機感が率直に書かれている。背景としてこの危機感を常に念頭におかなければならない。

# 今後における学術情報システムの在り方について（答申）

昭和55年1月29日  
学術審議会第23号

## 3 新しい学術情報システムの考え方と整備の方策

### (1) 「学術情報システム」の基本的な考え方

新しい学術情報システムは、学術研究活動の諸過程で必要とされる各種の情報を的確にかつ効率的に利用者に供給するシステムでなければならない。そのためには、第1に、**学術情報に関する必要な諸機能が有機的に連結し、これらが一つの総合化されたシステムとして組み立てられることが重要である。**すなわち、一次情報その他の情報を、可能な限り全国的見地から体系的、効率的に収集・整備するとともに、必要な情報を利用するための情報検索を迅速にかつ容易にするための手段を確立し、**必要とされる情報を迅速、的確に提供するなど整合性ある単一の総合システムとして構成する必要がある。**

ミッションは今も  
変わっていない

<http://user.keio.ac.jp/~ueda/sip/sip5.n>

## 今後における学術情報システムの在り方について(答申)

昭和55年1月29日  
学術審議会第23号

第2に、新しいシステムは資源共有の考え方を基調として構成することが有効である。すなわち、これまで**既存の各大学等の諸機関において蓄積されてきた人的、物的な各種の資源、今後新たに蓄積される可能性のある資源等を含め、有効な相互利用を前提とし、機関間の全国的なネットワークを構成することが望ましい。**

第3に、新しい学術情報システムが**学術研究に取り組む研究者にとって最適のシステム**であることが重要である。学術研究は、分野が極めて広範にわたり、かつ専門性の高いものであることから、研究に用いられる情報は、内容の総合性、多様性、高次性、先導性などが強く要求される。このような学術関係の需要に応ずる情報システムを構成することは、研究の基盤を強化し、優れた研究成果につながるものと考えられる。

このような角度から、新たに学術研究に必要な情報についてのシステムを構成していくことは、今後、産業として知識産業を主体として推移するとみられる我が国において、**相互利用が前提！大学側の責任が大きい！！** にもかかわらず最も有効な先行的投資の一つとして

<http://user.keio.ac.jp/~ueda/sip/sip5.html>

# ミッションは変わってない！変わったのは環境！

○NACSIS-CAT稼働は1984年、運用開始が1985年。以来、30年間運用されてきているが、基本的な設計は当時から継承

← システムとして優れていた

○学術情報流通の環境が大きく様変わり

- ・ 検索技術をはじめとするICT技術の進歩
- ・ ISBN等の識別子普及←昔は記述自体が識別情報だった
- ・ 電子ジャーナル・電子ブック等の普及
- ・ 出版物のボーンデジタル化←デジタルデータがある筈
- ・ 学術情報センターから国立情報学研究所への改組と法人化  
←政府直営事業から委託事業へ
- ・ 大学図書館の現場での目録担当者の大幅な減少



# 本日の概要

---

- 1.NACISIS-CAT概要
- 2.NACISIS-CAT再構築についての検討経緯
- 3.NACISIS-CAT検討作業部会について
- 4.CAT2020のポイント
- 5.NACISIS-CAT実施方針
- 6.今後に向けて

---

# 1. NACSIS-CAT概要

# NACSIS-CAT概要(1)

## 総合目録データベース (NACSIS-CAT)

国立情報学研究所 (NII) が提供する、オンライン共同分担入力方式により総合目録データベースを構築するためのシステム

書誌・所蔵件数(2017年3月5日現在)

種類		件数
図書	書誌	11,802,467
	所蔵	132,205,369
雑誌	書誌	345,264
	所蔵	4,667,252

参加機関数(2017年3月末現在)

**1,321**

<https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/cat/>

# NACSIS-CAT接続機関

2017年3月31日現在

機関種別	機関数
国立大学	86
公立大学	88
私立大学	575
短期大学	122
高等専門学校	55
大学共同利用機関	14
海外機関	140
その他	241
合計	1,321

<https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/cat/org.html>

# NACISIS-CAT概要(2)

## NACISIS-CATの特徴

- オンライン共同分担入力方式
  - 書誌レコードの共有
  - 目録作成の省力化
- 重複書誌の排除
- 「固有のタイトル」の採用
- VOLの繰り返しによる表現（固有のタイトルを持たないもの）

# NACSIS-CAT関連年表(1)

年月	出来事
1980.1	学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」
1983.4	東京大学文献情報センター発足
1985.4	NACSIS-CAT運用開始
1986.4	学術情報センター(National Center for Science Information Systems)発足
1987.11-12	典拠リンクの任意化, 書誌構造の2階層化
1989.4	NACSIS-IRで図書目録情報を公開
1989.12	コーディングマニュアル刊行開始
1992.4	NACSIS-ILL運用開始
1997.11	新CAT(=現行のCAT)開始
1998.1	Webcatサービス開始

# NACISIS-CAT関連年表(2)

年月	出来事
1999.12	目録情報の基準第4版刊行
2000.4	国立情報学研究所に改組(学術情報センターの配置、転換)
2004.9	書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト発足
2004.12	旧CAT終了
2005.10	書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト 最終報告
2007.7	図書館連携作業部会および次世代目録ワーキング発足
2009.3	次世代目録所在情報サービスの在り方について 最終報告
2010.1-3	TRCMARCからの事前登録書誌の試行
2010.10	国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書締結(→ <b>連携・協力推進会議の設置</b> )
2011.3	東日本大震災による東京電力の計画停電のため、サービス停止、限定サービス実施

# NACSIS-CAT関連年表(3)

年月	出来事
2011.3-6	参加館状況調査アンケート実施
2011.11	CiNii Books 公開
2012.6	これからの学術情報システム構築検討委員会 設置
2013.3	Webcatサービス終了
2015.7	NACSIS-CAT検討作業部会 設置



---

## 2. NACSIS-CAT再構築に むけた検討経緯

# 次世代目録所在情報サービスの在り方について

## 最終報告

- 資料：電子情報資源への対応
- システム：データ構造とデータ連携
- 運用：体制の抜本的見直しに向けて
  - NACSIS-CAT 外に存在する書誌データの活用
  - 運用体制

国立情報学研究所学術コンテンツ運営・連携本部図書館連携作業部会(次世代目録ワーキンググループ)  
次世代目録所在情報サービスの在り方について(最終報告)(2009年3月)

[https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/next\\_cat\\_last\\_report.pdf](https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/pdf/next_cat_last_report.pdf)

## 第8回 連携・協力推進会議

…目録所在情報サービスの将来計画の検討については、重要な課題と認識しており、検討を加速させるためにも **2020年には現在のような枠組みでの目録システムは終了していることを想定して**、ワーキンググループだけでなく委員会としても議論していただきたい…

連携・協力推進会議 第8回議事要旨(2014年7月)

[https://www.nii.ac.jp/content/cpc/documents/pdf/8-3\\_gijiyoshi.pdf](https://www.nii.ac.jp/content/cpc/documents/pdf/8-3_gijiyoshi.pdf)

## これからの学術情報システムの在り方について

…学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」（1980年）を受け、1985年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境には様々な変化が起きている。特に、電子ジャーナルをはじめとした電子情報資源の普及によって、資料の流通・管理のあり方が大きく変貌したこと、また研究者、学生の情報利用や研究・教育のプロセスがますます電子的手段を前提とするものになっていることへの対応が急務となっている。**NACSIS-CAT/ILLを中核とした従来のシステムの軽量化・合理化**を図りつつ、そうした変化への対応を行えるシステムの整備を目指す必要がある。…

これからの学術情報システム構築検討委員会

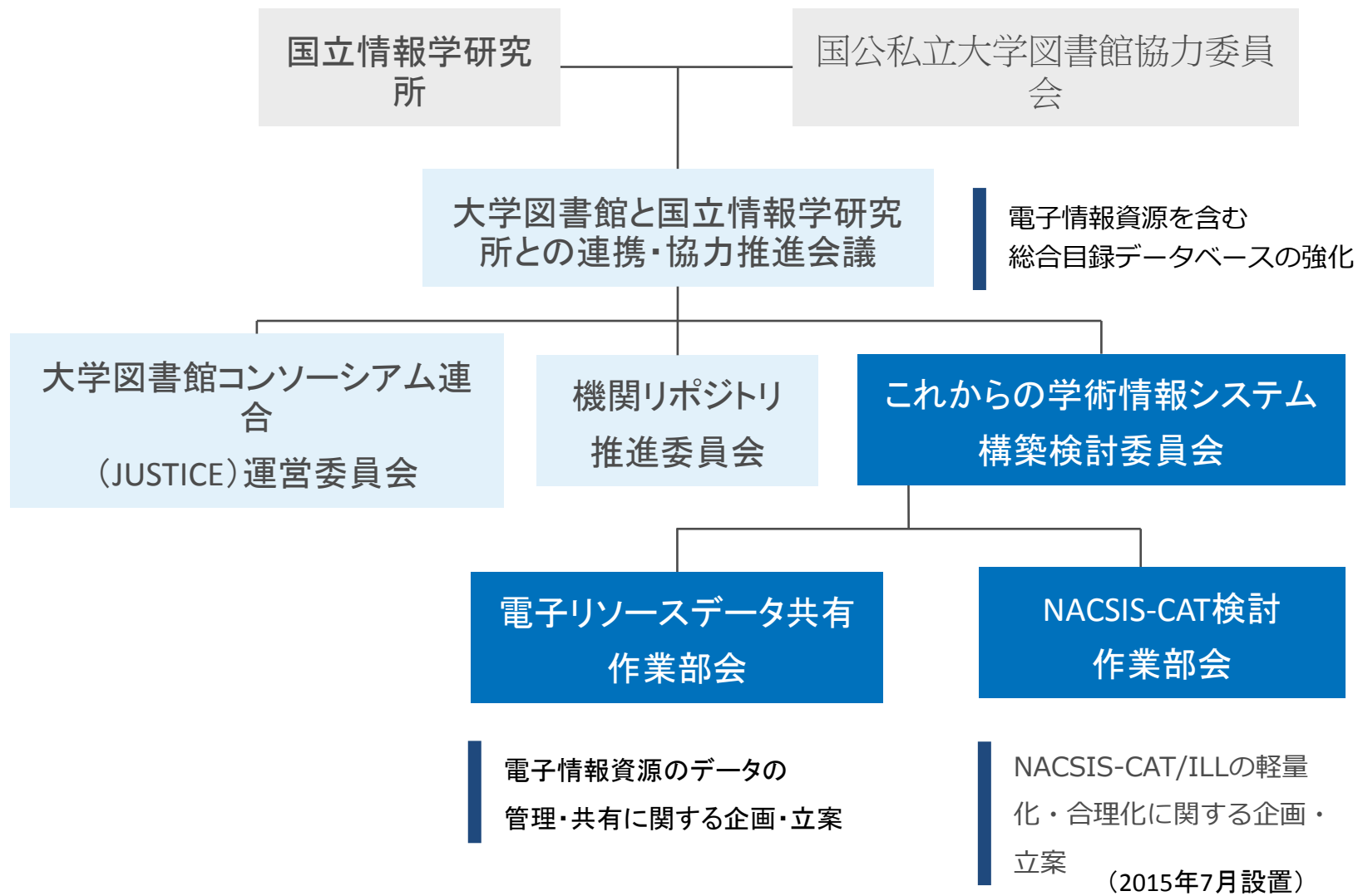
これからの学術情報システムの在り方について(2015年5月)

[http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara\\_doc20150529.pdf](http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20150529.pdf)

---

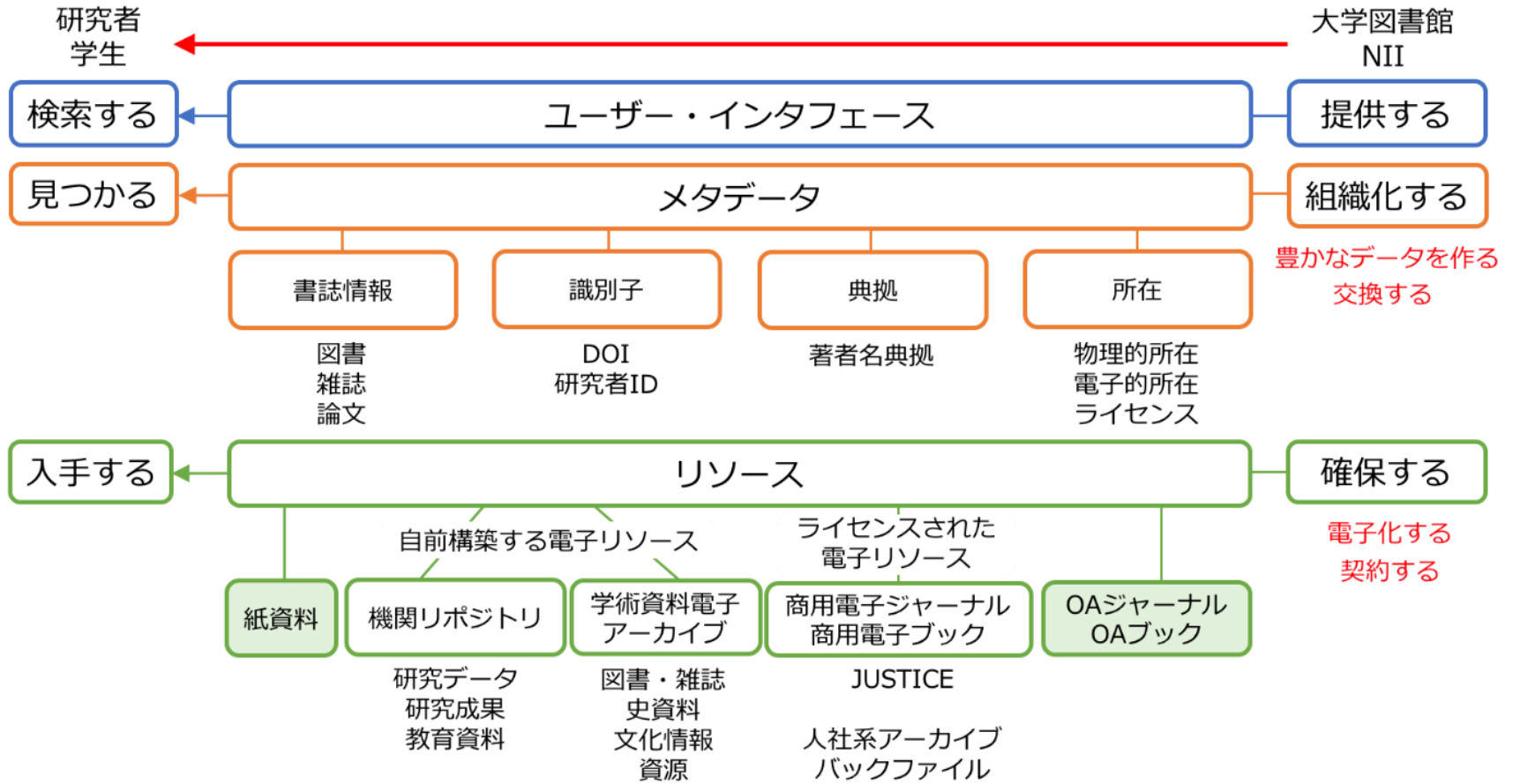
# 3. NACISIS-CAT検討作業部会 について

# NACSIS-CAT検討に関わる組織



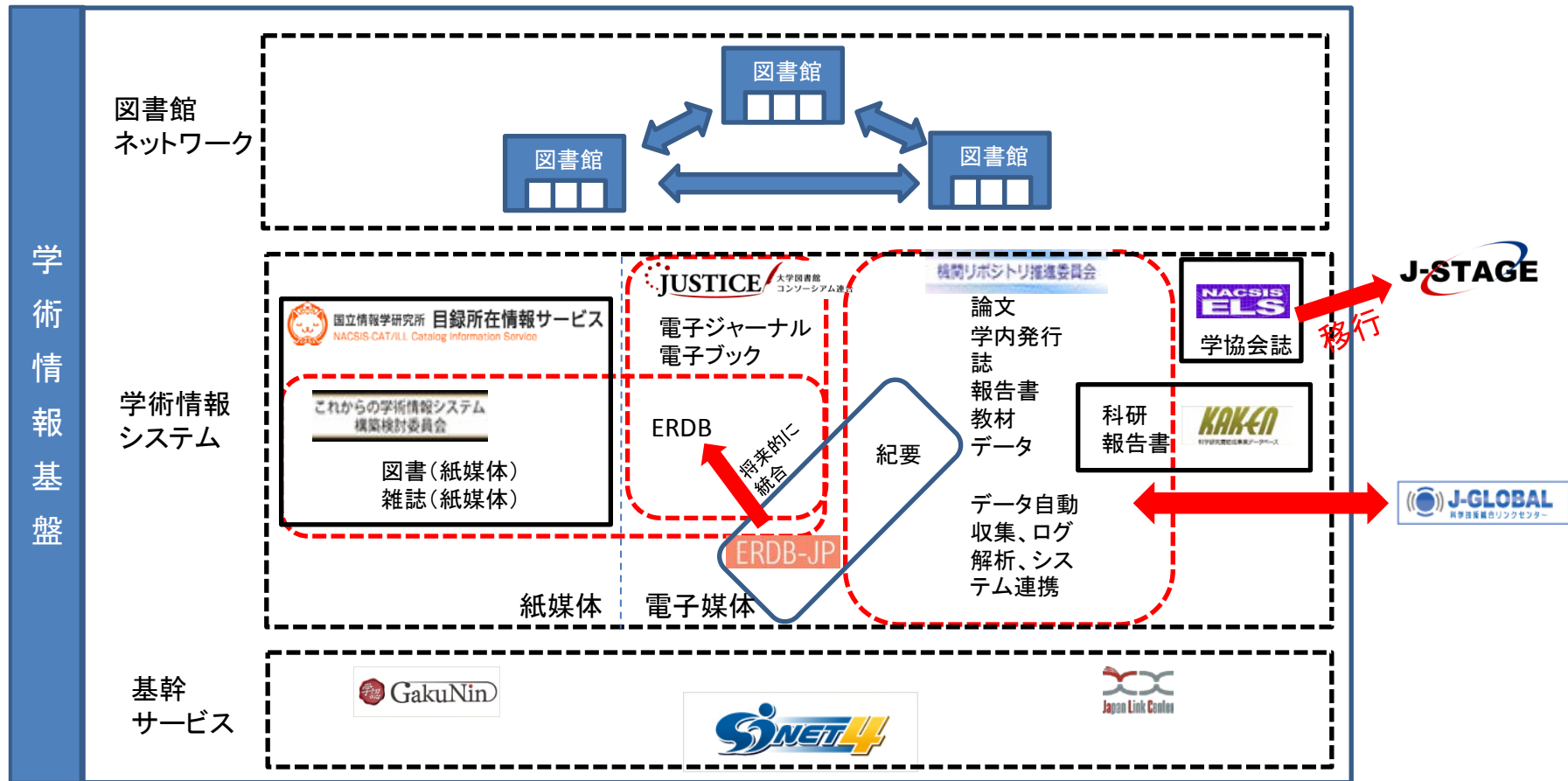
# これからの学術情報システム（概念図）

## データを組み合わせてサービスをつくる



細川聖二. 情報システムから見たNACSIS-CAT/ILLの課題(第102回全国図書館大会)より抜粋  
[http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/jla\\_hosokawa\\_20161016.pdf](http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/jla_hosokawa_20161016.pdf)

# 学術情報基盤の再構築（機能要件の再定義）が必要





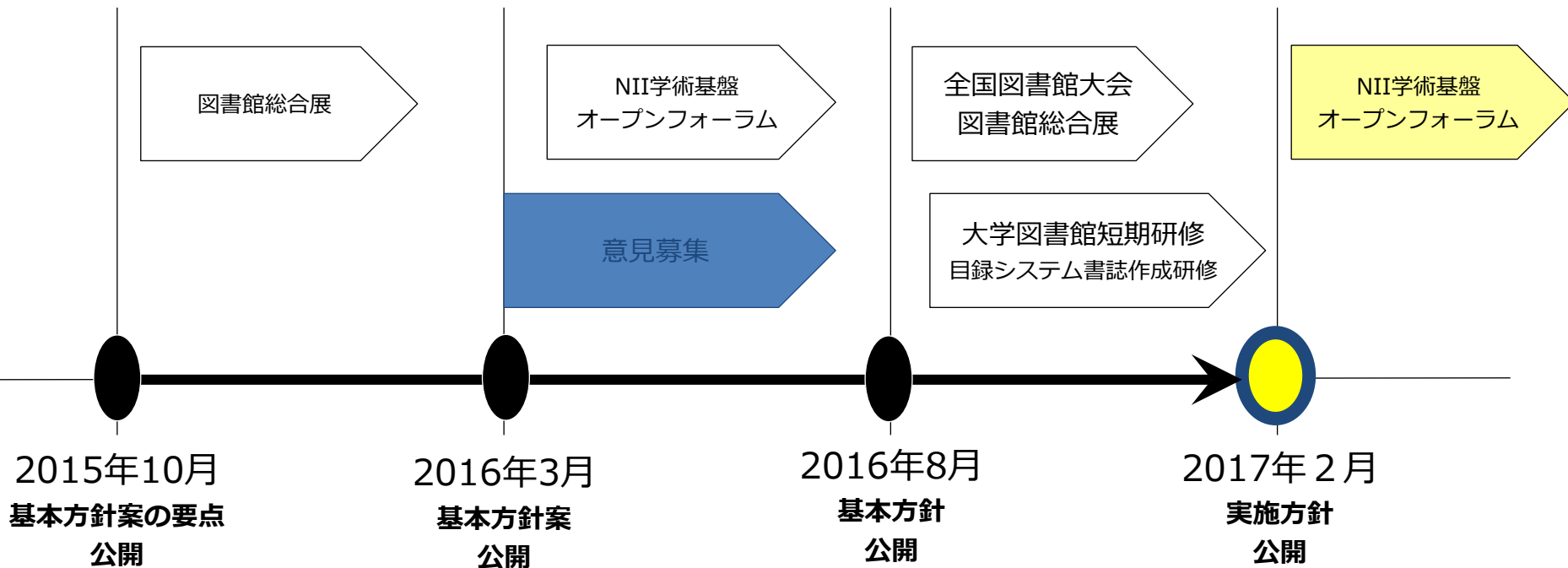
## 作業部会の活動

---

- NACSIS-CAT検討作業部会は、平成27年5月の第11回これからの学術情報システム構築検討委員会で設置決定
- 平成27年8月に第1回開催
- 集合会議とWebベースでの検討
- 作業部会メンバーは、全国の大学図書館で  
目録業務に現場で携わってきた図書館員から選出

# 作業部会の活動

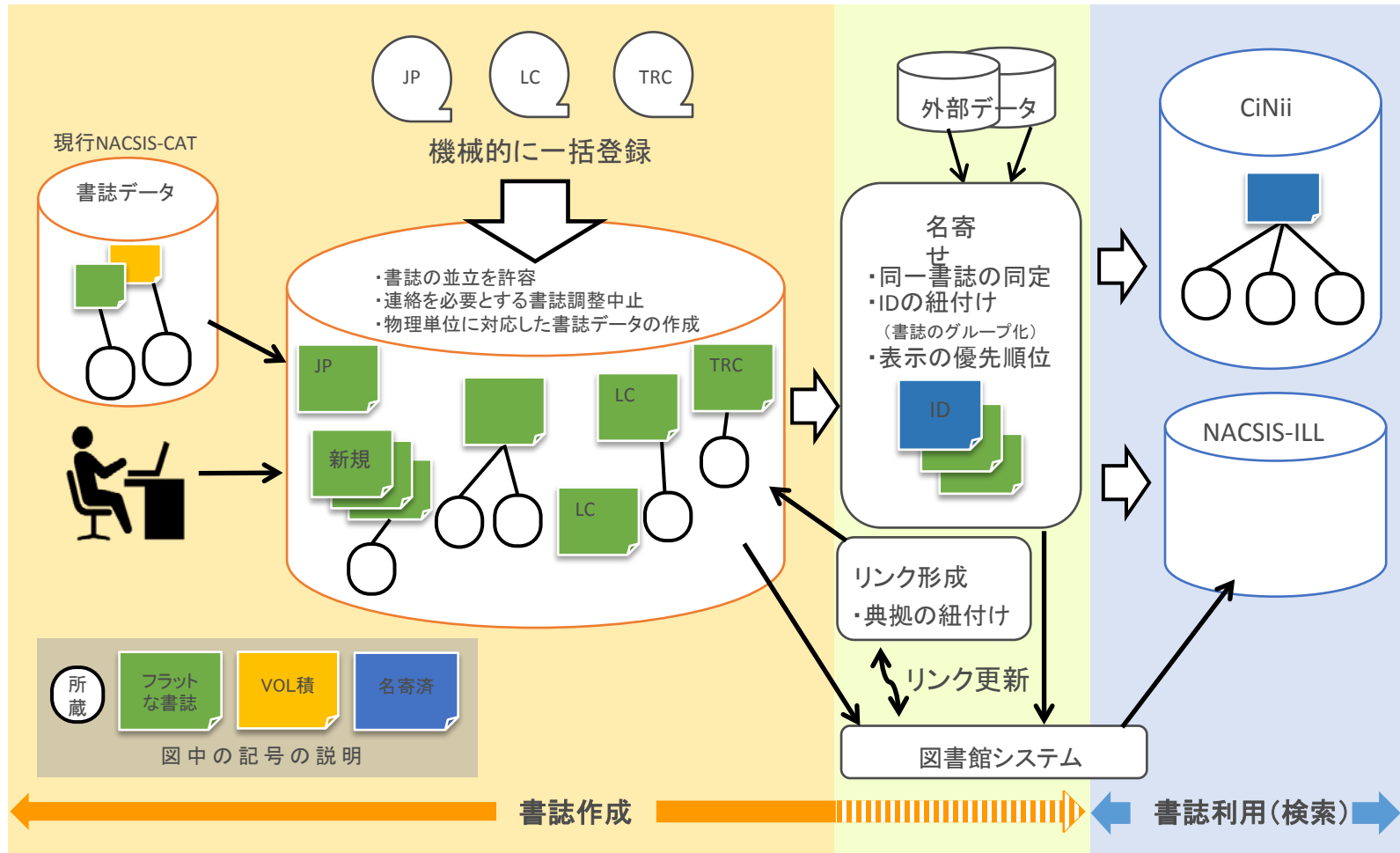
NACISIS-CAT検討作業部会は第1回（2015年8月）から第13回（2017年5月）まで開催。



---

# 4. NACSIS-CAT/ILL再構築 (CAT2020) のポイント

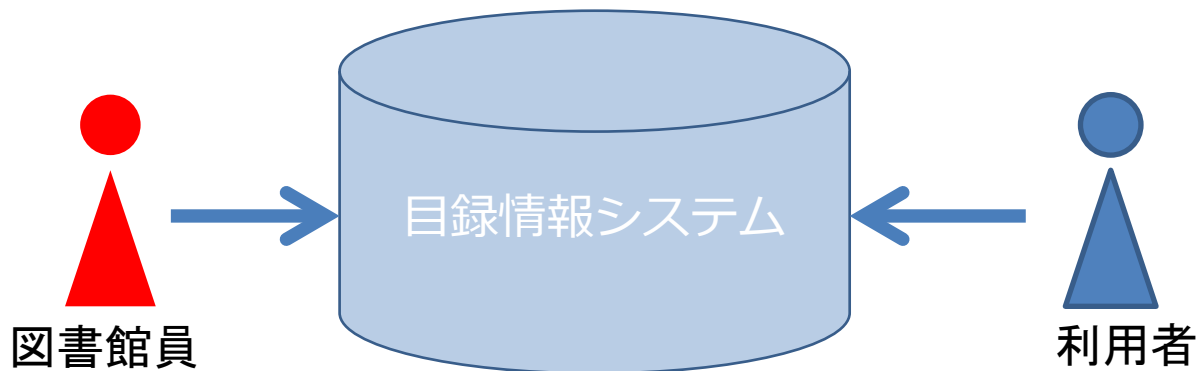
# CAT2020概念図



# CAT2020のポイント



# 現在の目録システム 80年代の技術を前提



図書館員が手動で**書誌を構造化**してシステムに登録（書誌階層、典拠、わかち・・・）

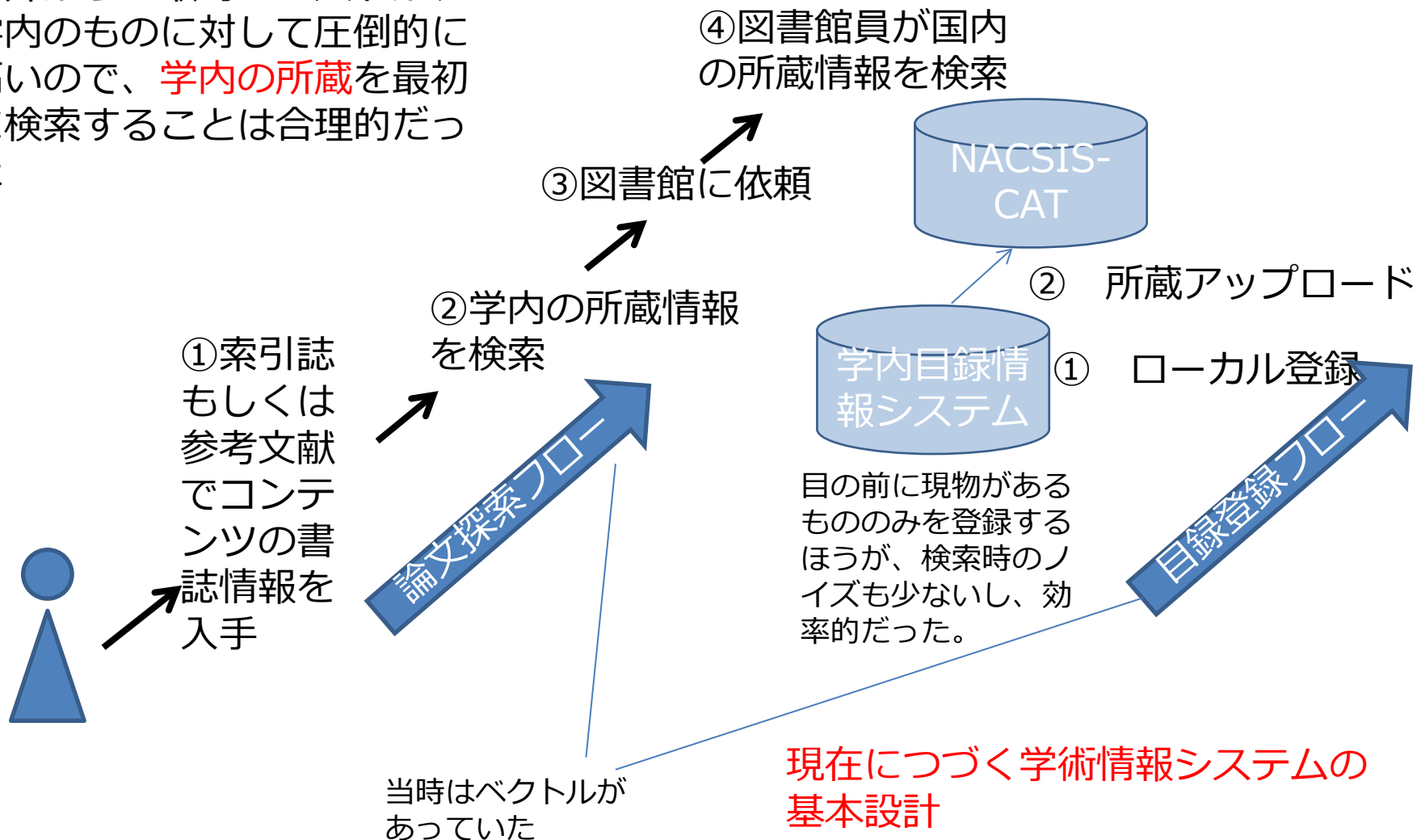
システム利用にあたって、直観的には**わかりにくい部分**は情報リテラシーで補足。

図書館員が登録した目録データを**そのまま利用**  
※利用者用も業務用も同じデータ、同じシステムを利用

情報リテラシーにおける最初の第一歩は、引用文献中の図書と雑誌の見分け方だが、図書と雑誌を分ける理由は**紙媒体の物流上の制約**である。電子的な学術情報流通において、図書と雑誌の区別をいつまで続ける？（紙媒体の雑誌は、論文のコンテンツにすぎない）。デジタルの世界では論文でも図書でも一点買いの手間は変わらない。

# 80年代の論文探索フロー：NACSISの世界で閉じていた

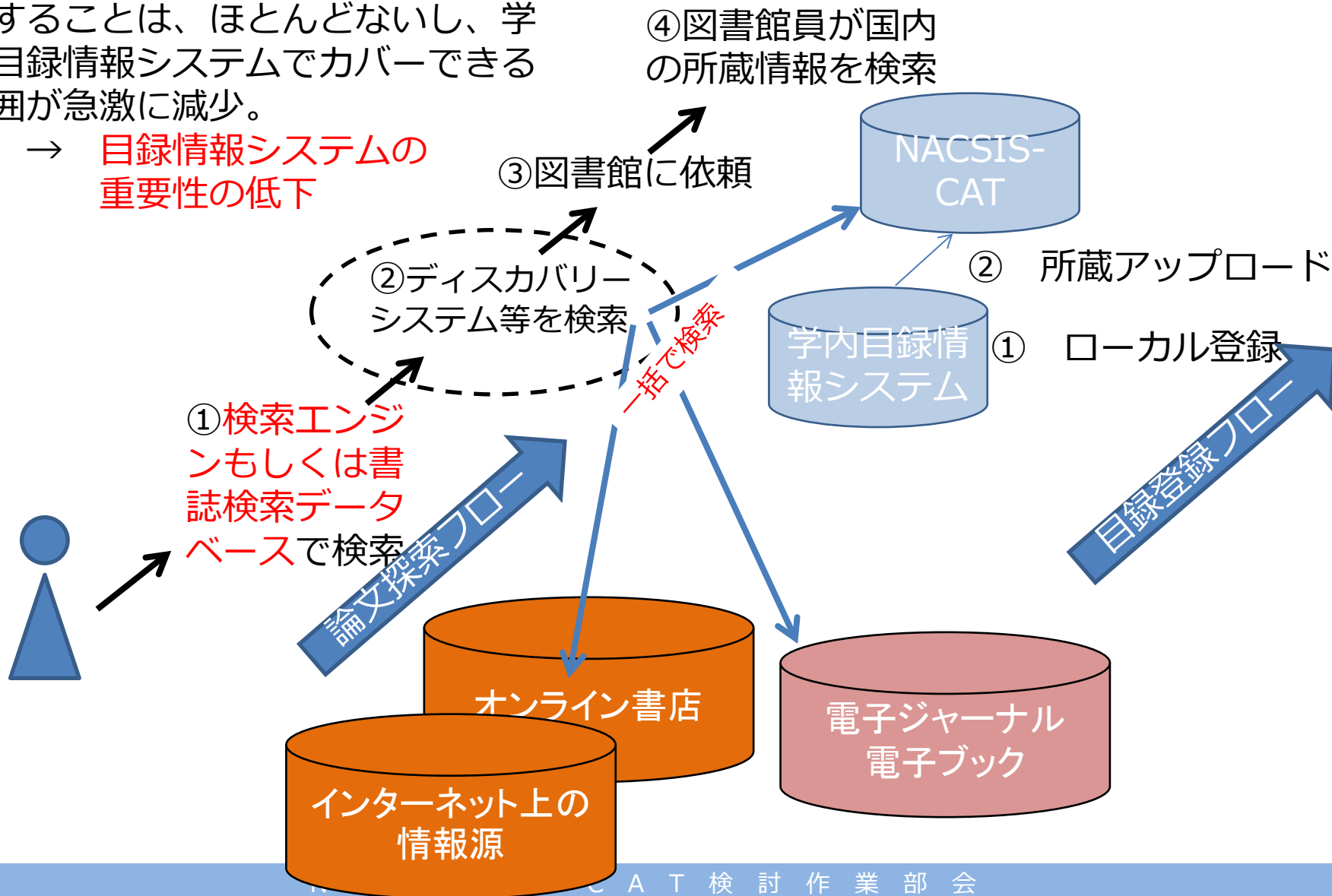
学外からの取寄せコストが、学内のものに対して圧倒的に高いので、**学内の所蔵**を最初に検索することは合理的だった



# 現在の論文探索フロー：NACSISの世界で閉じていない

学内目録情報システムから最初に検索することは、ほとんどないし、学内目録情報システムでカバーできる範囲が急激に減少。

→ 目録情報システムの重要性の低下





# NACISIS-CAT単独では、十分なサービスはできていない現実

- システムの使いにくさを、情報リテラシー指導で補足しそれが必須のリテラシーだと強弁していないか？
  - # 直観的に使いやすいシステムが次々にでてくると必須でないことがバレる（例えば、Amazon）

より使えるシステムにするためには

対策1) **NACISIS-CATをリッチにする**

→手動？ 自動？ → 現実的に可能か？

対策2) **他のシステムとの連携性を高める**

→手動？ 自動？

→ そのためには何が必要？

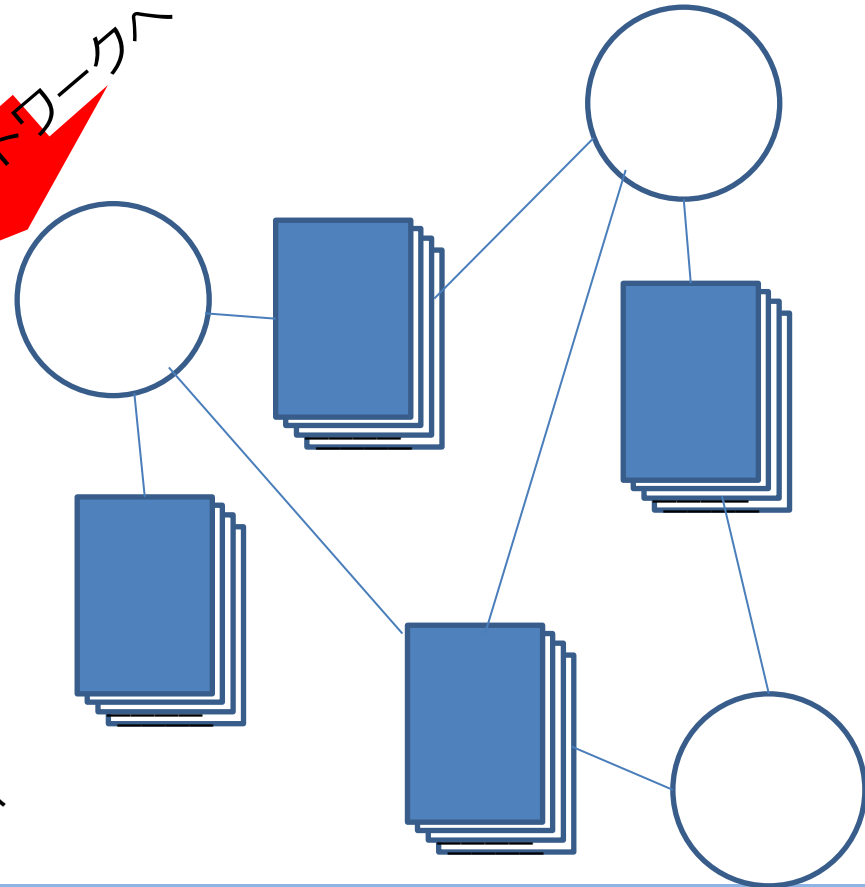
機械的な連携を考えると

- ・ 下手に構造化されていない（**構造はフラット**）
- ・ 機械同定が容易（**識別子はリッチ**）



書誌の構造が綺麗に階層化されているのであれば書誌階層も綺麗にできるが、実際には異なる場合も多い（バランスしない書誌等）

階層からネットワークへ



様々なアクセスポイントから  
リンクを張り、多様なファセット  
からの検索が可能なネットワーク型へ

# 一方で中小規模機関にとっては

## 書誌ユーティリティは**ライフライン**

- 電子ジャーナルの購読タイトルも当然少ない
- WorldCatへの移行は無理
- ディスカバリーを導入できるわけがない
- なによりも本来の基幹システムである、NACSIS-CAT/ILLシステムをしっかりと欲したい。

2017年3月31日現在

機関種別	機関数
国立大学	86
公立大学	88
私立大学	575
短期大学	122
高等専門学校	55
大学共同利用機関	14
海外機関	140
その他	241
合計	1,321

<https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/cat/org.html>

# NACISIS-CAT/ILLシステム対応メーカー

メーカーさんと本格的な技術相談はこれからだが、プロトコル、データ構造等の**抜本的な**システムの変更は、少なくとも**2020年には不可能!**

株式会社エム・ビー・エー  
富士通株式会社  
株式会社高度情報システム  
株式会社NTTデータ九州  
株式会社ブレインテック  
京セラコミュニケーションシステム株式会社  
日本電気株式会社  
株式会社日立製作所  
日本事務器株式会社  
（株）リコー  
インフォコム（株）  
クワンタム・テクノロジー株式会社  
株式会社タイムインターメディア

<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/system/maker.html>

# 「NACSIS-CAT/ILLの再構築について」

- 基本方針（案）平成28年3月に公開
- 平成28年4月パブリックコメント募集
  - ←多くの**熱い**意見を頂いたが、これらを基に平成28年7月に基本方針案は確定。頂いた意見は詳細な技術的なものも多く、基本方針のレベルでは反映できることは少なかったが、適宜、**詳細案に反映**していきたい。
- 「NACSIS-CAT/ILLの再構築について」実施方針  
(平成29年2月公開)
  - ←システム開発に必要な機能項目の検討、および運用面、移行計画を範囲。ILLについては、CAT変更にともなう変更部分までを検討対象。

# NACSISI-CAT/ILLの軽量化と合理化

軽量化と合理化が作業部会にはミッションとして提示されたが、その定義は検討作業の議論の中で固まってきた。「軽量化」はシステムの軽量化ではなく、**人的作業の軽量化**である。ここでの人的作業には、「図書館側の人的作業」だけでなく、「利用者の人的作業」も含んでいる。合理化については、**現在の技術での「理にかなった」システム**をもとめての、システムの再設計である。ここでの合理性は経済的観点からも検討すべきである。



**「機械処理性の向上」**  
**「既存情報源の徹底的活用」**

# TRC MARCの流用による試行登録

- 「次世代目録所在情報サービスの在り方について（最終報告）」で提言されたNACSIS-CAT外に存在する書誌データの活用に向け、丸善新刊案内に掲載された和図書について、**TRC MARCを流用した事前書誌登録を試行実施（2010）**。
- 目録作業の軽減化という点で、意義のある試行実施であったが、コスト・方式・品質を検討した結果、今回の方式による事前書誌登録は行わず、より有効な事前書誌登録の方法を、引き続き、検討することになった。
- 書籍発売からTRCMARCを流用して事前書誌登録を行うまでに**タイムラグ**があったため(登録作業は手作業)、事前書誌登録以前に作成された書誌が多かった。
- 機械処理による登録ではなく、目視チェックを行った登録でも、**品質が確保できなかった**。
  - ← コーディングルールをTRC側に寄せなければ  
機械処理での迅速化は測れない
- <https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/about/infocat/cip/mshinkan.html>

# 平成 27 年度 学術情報システム総合ワークショップ

【1班テーマ】「外部データ活用のための参照 MARC 比較調査と NACSIS-CAT 新モデルの提案」

調査では、流用登録されたレコードを対象に、(1)参照 MARC (JP/TRC/US/UK/DN) と NACSIS-CAT レコードの一致率の算出、(2) 不一致データのサンプル調査による不一致項目の分類を行った。2つの調査により、現在の参照 MARC を利用する際に修正が必要な割合は、0.87%~6.02%であることがわかった。この結果にもとづき、新モデル案を検討

「修正レコードは新規データとして扱い、外部データと新規データを名寄せにより利用する書誌作成モデル」

がもっとも実現可能性が高いという結論にいたった。

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/ciws/h27/curritxt.html>



# 平成27年度 学術情報システム総合ワークショップ

【2班テーマ】 「NACSIS-CATの運用モデル再考：目録センター館を含む書誌作成の改善」

書誌作成の改善のモデルとして、参加機関が平等に書誌作成を行う共同分担方式ではなく、オリジナル書誌作成館と非作成館に参加機関を二分するのでもない、

調整役を導入しスキルを持つ「センター館」と連携  
する共同分担方式

を提案する

オリジナル書誌作成の省力化 NACSIS-CAT 独自構造（階層構造、VOL 積み）については、インタビューを通じて解消に 肯定的な意見及び否定的な意見の両方が見られた。もっとも、外部データ（各種 MARC 等）の活用については、機械的に流用できるのであればそのほうが良い、という意見が多数を占めた。

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/ciws/h27/curritxt.html>

# 2014～2016年の館別新規書誌作成数

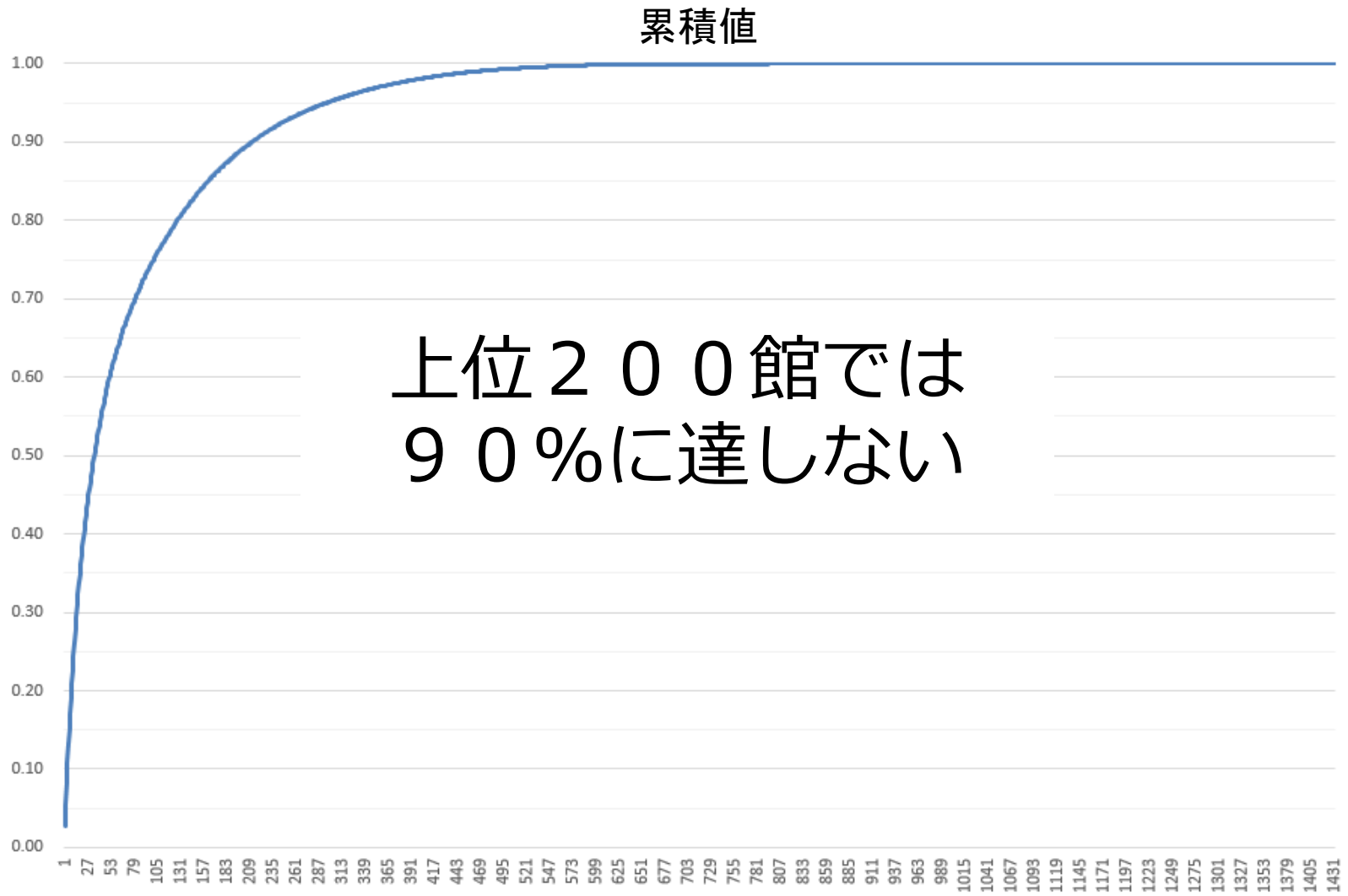
新規書誌作成数(H26-28)



NACSIS-CAT統計情報より作成

[https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/cat/database/h28/c\\_crtfa.html](https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/cat/database/h28/c_crtfa.html)

# 2014～2016年の館別新規書誌作成数



NACISIS-CAT統計情報より作成

[https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/cat/database/h28/c\\_crtfa.html](https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/cat/database/h28/c_crtfa.html)

# 現在のNACSIS-CATのシステム

○現在のNACSIS-CATのシステムでは、**書誌の階層性や関連付けを人的に付与し、利用者は直接的にその書誌にダイレクトにアクセス、書誌を探索する仕様**

- ← 80年代から90年代の技術を前提としたものであるが、実用性が高く、30年間にわたって使用されてきた。
- ← 書誌構造の複雑さ故に機械的処理にはなじまない点が多い。
- ← VOL積みの際に様々な情報を捨てている。

80年代はNACSIS-CATの一つの閉じた世界で完結できたが、現在は様々な電子資料等の紙媒体以外の資料も増えており、**複数のシステムの相互運用**が必須となってきた。

一方で、各参加機関の**図書館員の高い書誌作成能力を前提**としてきたが、その前提は崩れてきている。書誌ユーティリティの普及が各大学の図書館職員の業務を削減し、それが目録系の図書館員の削減を促す、ということは自然な流れではあるが、その進行がNACSIS-CATの土台の維持が困難なまですんできている。

# 現在のNACISIS-CATのシステム

---

○「参照MARCをNACISIS-CATのコーディングにあわせて、参加機関の図書館員が調整、情報を付加し品質を保つ」という運用モデルの見直しがせまられている。

○検索技術、テキスト処理技術の進歩により、元となる書誌の品質の精粗は技術的でカバーできるようになってきた。既にCiNiiでは、複数の情報源の複数の書誌データを機械的に処理、統合したデータを利用者側に提供。

作業部会の検討の結果として、書誌作成システムと書誌利用システムを明確に**分離**することとした。これは大きな設計思想の転換である。

従来の設計思想としては書誌作成と書誌利用では同じシステムを用い、**図書館員は書誌がそのままの形で利用に供与される、という前提で書誌作成を行ってきた**。今後は

書誌作成システム→機械処理を前提とした

フラットでシンプルな構造の書誌作成

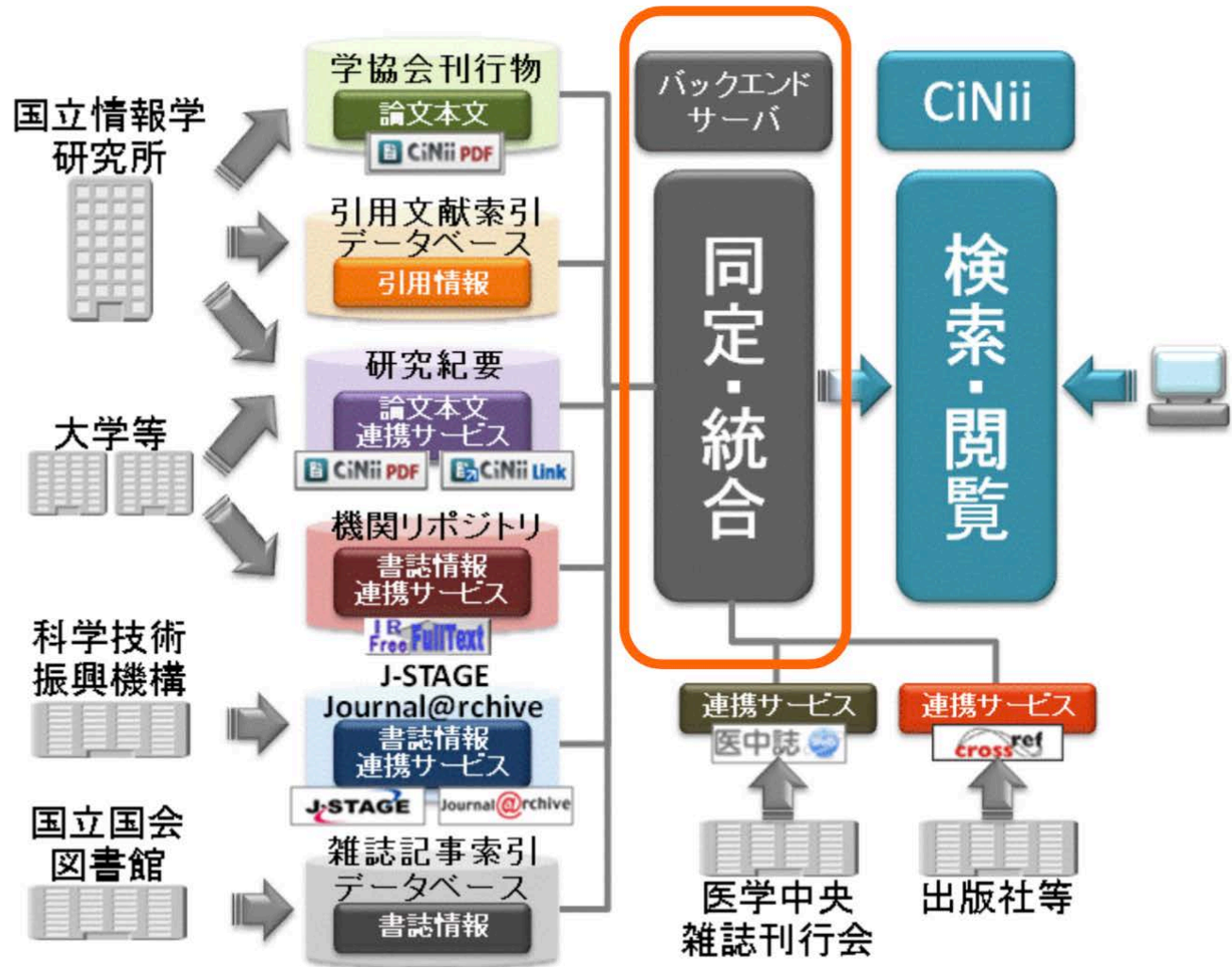
書誌利用システム→名寄技術等の機械処理を前提として

他のシステムとの相互運用を積極的

にはかりながら、リッチな書誌の提供

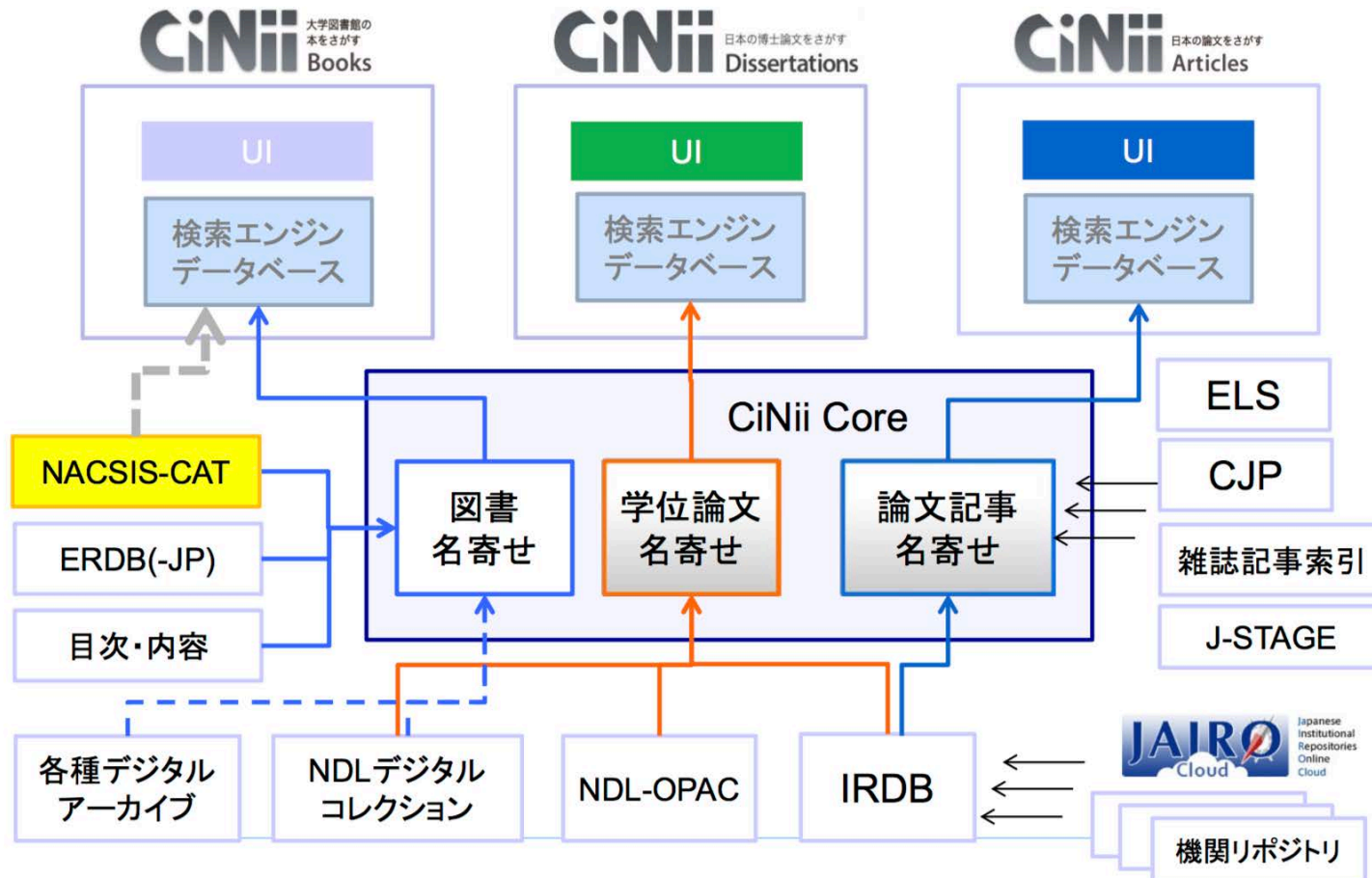
図書館員としては抵抗感があるが、書誌作成時の目録の品質を落とすこともやむをえないと考えている。

# CiNiiでは機械処理を実装済み



細川聖二. 情報システムから見たNACSIS-CAT/ILLの課題(第102回全国図書館大会)より抜粋  
[http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/jla\\_hosokawa\\_20161016.pdf](http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/jla_hosokawa_20161016.pdf)

# CiNiiでは機械処理を実装済み



細川聖二. 情報システムから見たNACSIS-CAT/ILLの課題(第102回全国図書館大会)より抜粋  
[http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/jla\\_hosokawa\\_20161016.pdf](http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/jla_hosokawa_20161016.pdf)

書誌単位が揃っていないと処理が難しい



# 書誌作成システムと書誌利用システムの分離

具体的には

- ・ 参照M A R Cの書誌の無修正での事前登録  
（書誌作成ルール混在の許容）
- ・ 同一出版物に対する複数書誌の許容
- ・ 名寄技術の限界の見極め
  - ← 名寄せはデータの同定を支援するツールではあるが、書誌構造が異なるもの同士の間定はできないし、あえて別書誌にしたものを統合してしまうリスクがある。
  - ← 名寄せとは言っても、タイトル等のテキスト情報による照合よりはISBN等の識別子のほうが当然精度は高い。

機械的にどのように処理されるかを意識して設計を考えなければならない。

# 基本方針

## (1) 書誌構造リンクの任意化

書誌階層がある場合もシリーズ情報を書誌データに記述することとどめ、書誌構造リンク形成作業は必須としない

## (2) 書誌作成単位の出版物理単位への変更

書誌作成単位を、従来の単行書単位から出版物理単位に変更し、「VOLフィールド」の繰り返し（いわゆるVOL積）は禁止する。

## (3) 外部機関作成書誌データの活用

外部機関が作成した書誌データを総合目録データベース内に事前登録する。外部機関が作成した書誌データについては、作成時に準拠した目録規則を許容し、NACSIS-CATが準拠する目録規則に合わせるための修正は行わない。レコード調整については、すべての参加機関に、従来通りに新規書誌を作成するための機能を提供する。これまでのレコード調整を必要とするような修正は、新規書誌データの別途作成によって対応し、同一資料に対する複数の書誌データ（並立書誌データ）の存在を許容する。

# 基本方針

- 運用面において、大きな変更、特に**作成者側の意識の変更**を求めることになるため、「目録情報の基準」等の見直しを行い**書誌の入力ガイドラインの整備は必須**である。また**研修制度整備も検討**しなければならない。一方でシステム面では、CATPについては、データベースフィールド定義の変更にとどめ、メソッド等の通信にかかわるルールは継続することとし、**各機関の図書館システムへの影響は最低限**にとどめることとした。
- **雑誌**についても検討を行ってきたが、結論として、雑誌についてはシステムの完成度が高く、現在の基本設計を踏襲することとなった。雑誌については、図書以上に電子化が進んでおり、最大の課題は**電子ジャーナルとの連携**をどのように進めるかであり、電子リソース管理とも連携して進めなければならないが、本作業部会の検討対象からは当面は外すこととした。

# 目録業務の軽量化・合理化のイメージ

## 現在

1) コピーカタロギング  
+ 手動所蔵登録

2) コピーカタロギング  
+ 自動所蔵登録

3) オリジナルカタロギング  
(参照MARC流用)  
+ 手動所蔵登録

4) オリジナルカタロギング  
(完全オリジナル)  
+ 手動所蔵登録

## 軽量化・合理化後

コピーカタロギング  
+ 自動所蔵登録  
(書誌単位変更による自動所蔵登録  
の精度向上)

(従来どおり)

コピーカタロギング  
(事前登録書誌)  
+ 自動所蔵登録

(従来どおり)

# NACISIS-CATの書誌作成数

## 直近5年間の書誌作成数：1,573,253

ISBNあり	774,461	49.2%	コピーカタログニング (事前登録書誌) + 自動所蔵登録
ISBNなし・流用元なし <b>完全オリジナル</b>	640,286	40.7%	従来どおり
ISBNなし・流用元あり	158,506	10.1%	コピーカタログニング (事前登録書誌)

- ・「ISBNあり」は、自動化による業務削減を期待。
- ・完全オリジナルについては、作成された書誌データを精査し、作成館・出版年・言語・所蔵機関数等の精査が必要 ← 一部の機関が大半を占める？ロングテール？
- ・「ISBNなし・流用元あり」も、作成された書誌データを精査し、作成館・出版年・言語・所蔵機関数等の精査が必要 ← 一部の機関が大半を占める？ロングテール？

どこまで合理化が進められるか？

→ 目録業務の作業ボリュームの分析を進める

---

# 5. NACSIS-CAT 実施方針

# NACISIS-CAT実施方針の構成

## A. 書誌作成機能

- 書誌作成機能の合理化
  - 出版物理単位での書誌作成
  - 書誌構造リンクの見直し
  - 外部機関作成データの活用
  - 自動登録・自動リンクの強化
- 書誌管理作業の軽量化
  - レコード調整の廃止
- 運用ルール

データの合理化

外部機関作成データの活用

品質管理の合理化

# NACSIS-CAT実施方針の構成

## B. 書誌利用機能

- 書誌利用機能に求められる機能
  - NACSIS-ILL
  - CiNii Books

書誌作成機能と  
書誌利用機能の分離

## C. 図書館システムへの対応

- 図書館システムへの対応
  - NACSIS-CAT
  - NACSIS-ILL
  - CiNii Books

ソフトランディング



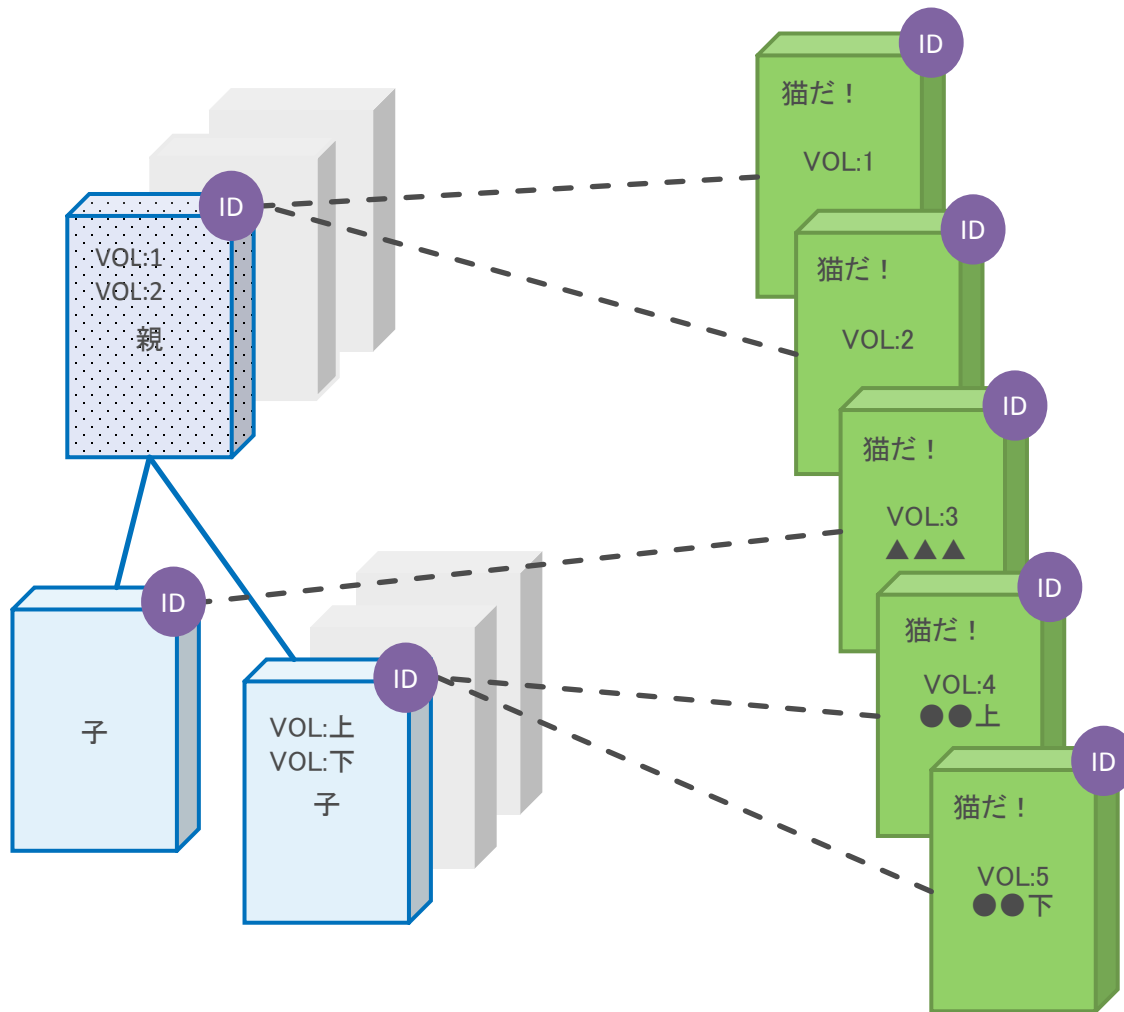
# NACSIS-CAT実施方針A. 書誌作成機能

## 出版物理単位での書誌作成(1)

### 出版物理単位での書誌作成

- 新基準適用後に作成する書誌データ
  - 出版物理単位を原則として, VOLグループの繰り返しを禁止
  - 和漢古書など一部の書誌データは例外的に許可
- 現行基準で作成済みの書誌データ
  - 遡及的な出版物理単位への分割は実施しない
  - 既存書誌データへのVOLグループの追加を禁止
  - 和漢古書など一部の書誌データは例外的に許可
  - 新基準適用後も既存書誌データへの所蔵登録は可能

# NACSIS-CAT実施方針A出版物理単位での書誌作成(2)



## 出版物理単位の書誌作成

- 形状、注記などの書誌記述の充実
- 外部データベースとの相互運用性の強化
- 表紙画像、あらすじ、目次の表示や本文画像へのリンクなど サービス拡張性の向上

# CiNii Books—HathiTrustのリンク

CiNii 日本の論文をさがす 大学図書館の本をさがす 日本の博士論文をさがす 新規登録 ログイン English

図書・雑誌検索 著者検索 内容検索

フリーワード  検索

すべての資料 図書 雑誌 詳細検索

## The globalization of higher education

 Weber, Luc

 Duderstadt, James J.

 Glion Colloquium

関連文献: 1件 ↓

### 書誌事項

**The globalization of higher education**  
edited by Luc E. Weber, James J. Duderstadt  
(Glion colloquium, no. 5)  
Economica, 2008

電子リソースにアクセスする 全1件

 The globalization of higher education / edited by Luc E. Weber, James J. Duderstadt  
2008



大学図書館所蔵 7件 / 全7件

すべての地域 ↓ すべての図書館 ↓

OPACリンクあり

 宇都宮大学 附属図書館  
377||W51

OPAC

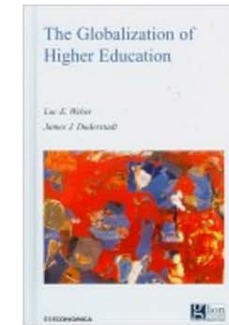
 桜美林大学 四谷キャンパス 図書室  
377/W51 10133790

OPAC

 ツイート

0

 いいね!



Google Books

### 詳細情報

NII書誌ID(NCID) :  
BA85233281  
ISBN :  
9782717855074  
出版国コード :  
uk  
タイトル言語コード :  
eng  
本文言語コード :  
eng

<https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20161102>

# CiNii Books—HathiTrustのリンク

The screenshot shows the HathiTrust Digital Library interface. At the top, there is a navigation bar with links for Home, About, Collections, Help, and Feedback. Below this is the HathiTrust logo and a search bar with a search button and a 'LOG IN' button. The search results page displays the title 'The globalization of higher education / edited by Luc E. Weber, James J. Duderstadt'. To the left, there is a 'Similar Items' section with several book titles and their authors. To the right, there is a 'Viewability' section with a 'Full view' button and a note '(original from University of California)'. The main content area includes 'Other Authors', 'Language(s)', 'Published', 'Subjects', 'Physical Description', 'ISBN', and 'Locate a Print Version'.

Home About Collections Help Feedback

HATHI TRUST Digital Library

FULL-TEXT CATALOG

Search words about the items All Fields

LOG IN

Advanced catalog search Search tips

Full view only

Similar Items

[Global sustainability and the responsibilities of universities /](#)  
By: Weber, Luc, 1941-  
Published: (2012)

[Reinventing the research university /](#)  
By: Glion Colloquium Glion, Switzerland  
Published: (2004)

[Universities and business : partnering for the knowledge society /](#)  
By: Glion Colloquium Glion, Switzerland  
Published: (2006)

[Preparing universities for an era of change /](#)  
By: Weber, Luc, 1941-  
Published: (2014)

[University research for innovation /](#)  
By: Glion Colloquium Glion, Switzerland  
Published: (2010)

[A master plan for higher education in the Midwest : a roadmap to the future of the nation's heartland /](#)  
By: Duderstadt, James J., 1942-  
Published: (2011)

[On the move : a personal history of the University of Michigan's College of Engineering in modern times /](#)  
By: Duderstadt, James J., 1942-

[Cite this](#) [Export citation file](#)

The globalization of higher education / edited by Luc E. Weber, James J. Duderstadt

Other Authors: [Duderstadt, James J., 1942-](#), [Weber, Luc E.](#)

Language(s): English

Published: London : Economica, 2008

Subjects: [Education, Higher > Aims and objectives > Congresses](#)  
[Education and globalization > Congresses](#)

Physical Description: xxiv, 290 p. : ill. ; 23 cm.

ISBN: 2717855076  
9782717855074

Locate a Print Version: [Find in a library](#)

Viewability:

[Full view](#) (original from University of California)

※HathiTrust Digital Library : <https://www.hathitrust.org/>

「HathiTrust Digital Library」は、米国の大学図書館を中心とした図書や雑誌等の資料の電子化プロジェクトで、学術的・文化的記録を現代の研究者の利用に供し、将来の利用者のために保存することを目的としています。全体では1千万点以上のコンテンツを公開しています。 <https://support.nii.ac.jp/ja/news/cinii/20161102>

# CiNii Books—NDLデジタルコレクションのリンク

CiNii

日本の論文をさがす

大学図書館の本をさがす

日本の博士論文をさがす

新規登録

ログイン

English

図書・雑誌検索

著者検索

内容検索

フリーワード

検索

すべての資料

図書

雑誌

▽ 詳細検索



## 医学中央雑誌



医学中央雑誌刊行会

イガク チュウオウ ザッシ カンコウ  
カイ

電子ジャーナルにアクセスする



このジャーナルのサイトへ  
オープンアクセス

### 書誌事項

#### 医学中央雑誌

医学中央雑誌刊行会

医学中央雑誌刊行会, [1903]-

1巻1号 (明36.3)-413巻6号 (昭58.3) ; 1983年1号 (1983.4)- = 3277号 (1983.4)-

タイトル別名 医学中央雑誌  
Japana centra revuo medicina

タイトル読み イガク チュウオウ ザッシ

電子リソースにアクセスする 全3,275件



医学中央雑誌 = Japana centra revuo medicina  
(1) 1903

NDLデジタルコレクション



医学中央雑誌 = Japana centra revuo medicina  
(2) 1903

NDLデジタルコレクション

ツイート

0

いいね!

### 詳細情報

NII書誌ID(NCID) :  
AN00064088

ISSN :  
03870006

出版国コード :  
ja

標準言語コード :  
jpn

本文言語コード :  
jpn

出版地 :  
東京

出版状況 :  
刊行中

刊行頻度 :  
月刊

定期性 :  
定期

逐次刊行物のタイプ :  
定期刊行物

### 書き出し

RefWorksに書き出し  
EndNoteに書き出し  
Mendeleyに書き出し  
Refer/BibLXで表示  
RISで表示  
BibTeXで表示  
TSVで表示

# CiNii Books—NDLデジタルコレクションのリンク

The screenshot displays the CiNii Books interface for the National Diet Library's digital collection. The main header reads '国立国会図書館デジタルコレクション' (National Diet Library Digital Collection) with a language dropdown set to '日本語'. A search bar contains the text 'すべて' and a search button labeled '検索'. Navigation options include '> 詳細検索', a checked 'インターネット公開' checkbox, and an unchecked '図書館送信' checkbox.

The record title is '醫學中央雑誌 = Japana centra revuo medicina. (1)'. Below the title, there are navigation buttons: 'サムネイル一覧', '先頭', '前', '次', '最終', 'コマ番号 1 /73', 'URL', '印刷する', and 'フルスクリーン'. A zoom level of '15%' and a '概観図オン' checkbox are also visible.

The left sidebar provides detailed book information:

- 書誌情報 [表示]
- 書誌情報
- 詳細レコード表示にする
- 永続的識別子: info:ndjip/pid/1732824
- タイトル: 醫學中央雑誌 = Japana centra revuo medicina. (1)
- 出版者: 医学中央雑誌刊行会
- 出版年月日: 1903-03
- ISSN: 0387-0006
- 請求記号: Z19-510
- 書誌ID (NDL-OPACへのリンク): 000000001364
- 公開範囲: インターネット公開 (許諾)
- 詳細レコード表示にする

The main content area shows a thumbnail of the book cover. The cover is titled '醫學中央雑誌' (Japana centra revuo medicina) and is the 4th issue (版四). It was published in March 1903 (明治三十六年三月廿五日發行) by the Japana Centra Revuo Medicina Society (醫學中央雑誌社). The cover also includes the address: 東京市本郷區赤木町三丁目廿二番地. A 'Kodak Gray Scale' and color calibration chart are visible on the right side of the thumbnail.

# IDによるデータ連携

## NACSIS-CAT/ILL

NCID	タイトル	ISSN
AA12687814	国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan)年報	2188823X

## ISSN日本センター

ISSN	タイトル	印刷物等のISSN
2188-8248	国際学術情報流通基盤整備事業 (SPARC Japan)年報	2188-823X

## ERDB-JP

ID	タイトル	eISSN	タイトルレベルURL
11826	国際学術情報流通基盤整備 事業(SPARC Japan)年報	2188-8248	<a href="http://www.nii.ac.jp/sparc/publication/s/annual/">http://www.nii.ac.jp/sparc/publication/s/annual/</a>

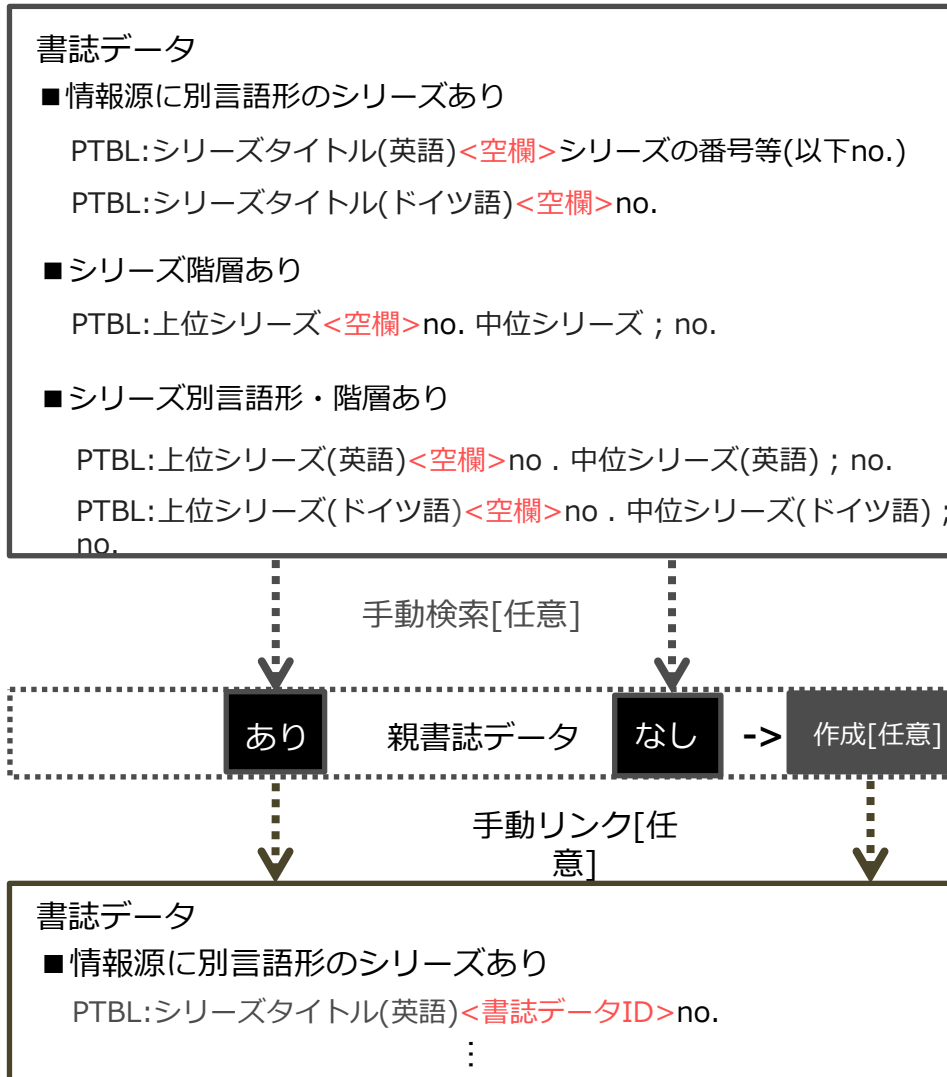
IDをキーに、データをつなぎあわせていく

## 書誌構造リンク形成作業

- 書誌構造リンク形成作業の任意化
  - 従来の親書誌データに相当するタイトル及び責任表示，親書誌データに対する番号等，中位の書誌単位のタイトル及び責任表示，構造の種類等を書誌データに記述
  - 親書誌データの新規作成及びリンク形成作業は現行の必須レベルから任意レベルに変更
- 書誌構造リンク形成機能の維持
  - 現行の検索環境を保証するため，手動によるリンク形成機能を提供



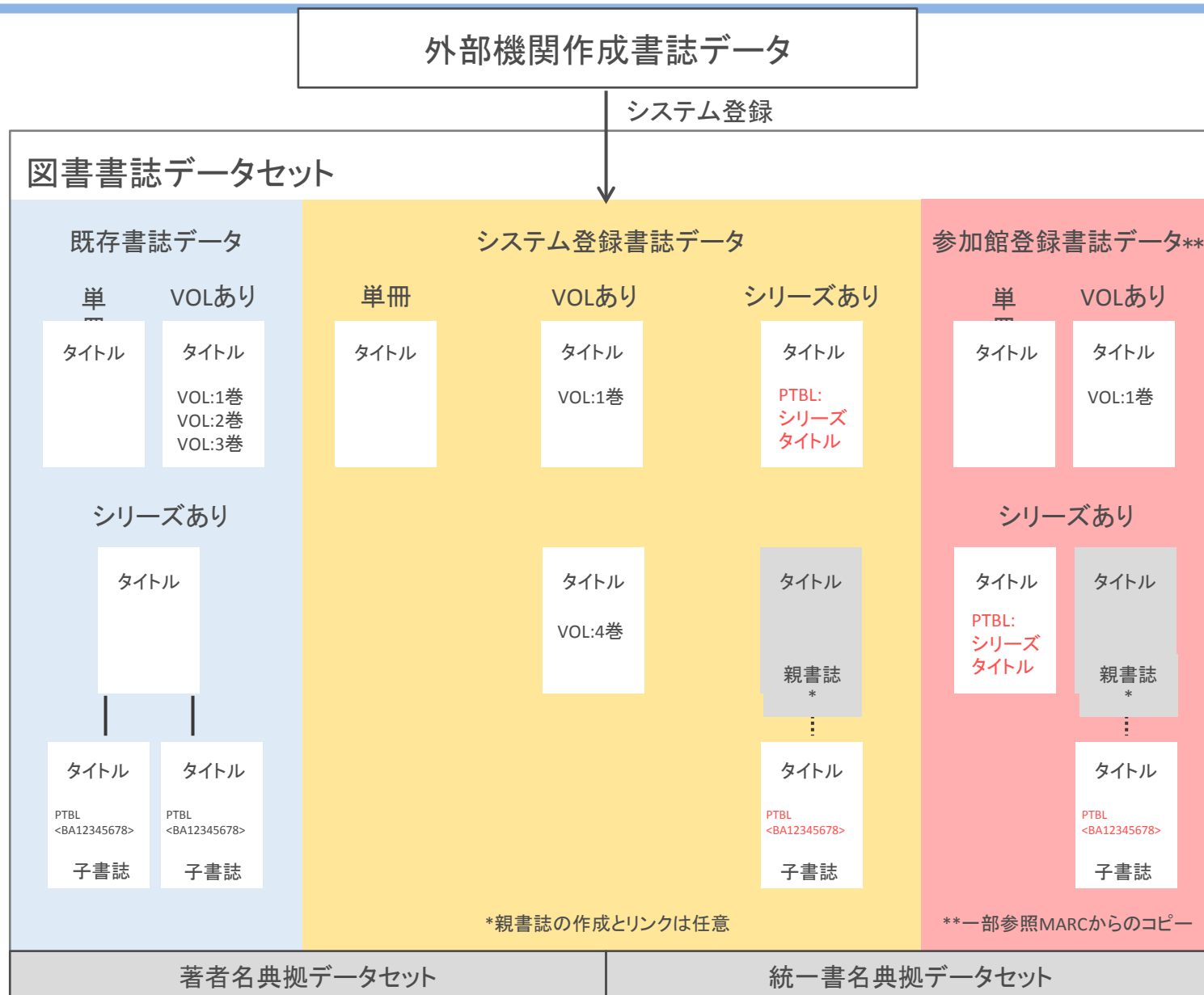
# NACISIS-CAT実施方針A書誌構造リンクの見直し(2)



## 書誌構造リンクの見直し

- 書誌作成時の作業効率の向上
- 必要に応じて親書誌データの作成やリンク形成も可能
  - ← 基本的には手動でのリンクは前提としない

# NACISIS-CAT実施方針A 新基準適合後のNACISIS-CAT



## 書誌データ

- 活用対象の外部機関作成データ
  - 当面は現行基準で使用している外部機関作成データ\*
- システム登録による利用
  - 新基準に合致する書誌データは、あらかじめシステム登録書誌データとして図書書誌データセットに登録
- コピー元データとしての例外的利用
  - 一部の新基準に合致しない書誌データ及びZ39.50接続によって現在取得している書誌データは、参加館登録書誌データの作成の際にコピー元データとして利用

※ 実施方針からは、データは現行のレコード、データセットは現行のファイルの意味で用いる(例 図書書誌レコード→図書書誌データ、図書書誌ファイル→図書書誌データセット)

\*[目録システム利用マニュアル]-[ 3.1 参照ファイルの種類] [http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/3\\_1.html](http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/3_1.html)



## 書誌データ

- 現在「参照ファイル」として登録されているデータの取扱\*
  - 高頻度での利用が予想される一定期間のデータのみ, システム登録書誌データとして図書書誌データセットに直接登録
  - 上記以外は, 参加館登録書誌データの作成の際にコピー元データとして活用

\*[目録システム利用マニュアル]-[ 3.1 参照ファイルの種類] [http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/3\\_1.html](http://catdoc.nii.ac.jp/MAN/CAT6/3_1.html)

## 著者名典拠データ

- システム登録による利用
  - 著者名典拠データセットに存在せず、活用が期待できる外部機関作成著者名典拠データの一部は、あらかじめ著者名典拠データセットに登録
- コピー元データとしての例外的利用
  - 上記以外は現行分参照MARCと同様に、参照MARCとして保存して、コピーして活用
- 参照MARC及び著者名典拠データセットのメンテナンス
  - 参照MARCを活用し、定期的に著者名典拠データの情報の追加あるいは著者名典拠データセットへの新規登録を行う

## 統一書名典拠データ

- 統一書名典拠データ
  - 現行基準を維持
  - ただし、外部機関作成書誌データをシステム登録する際に、基準に合致しないもの（統一書名以外の別タイトル等）が統一書名典拠のフィールドに入らないようにデータ変換ルールを見直す
  - データ変換で対応出来ない場合は参照MARCとして利用

## 所蔵の自動登録

- 所蔵の自動登録対象範囲の拡大
  - 外部機関作成書誌データのシステム登録によって、図書書誌データセット内の自動所蔵登録対象となる書誌数の増加を図る
- 精度の向上
  - 複数のVOLグループの繰返しによる表現を禁止することにより、自動登録時のVOL記述の不一致によるエラー減少と、ISBN等の**識別番号**による自動登録精度の向上を図る



## 著者名典拠データと書誌データの自動リンク

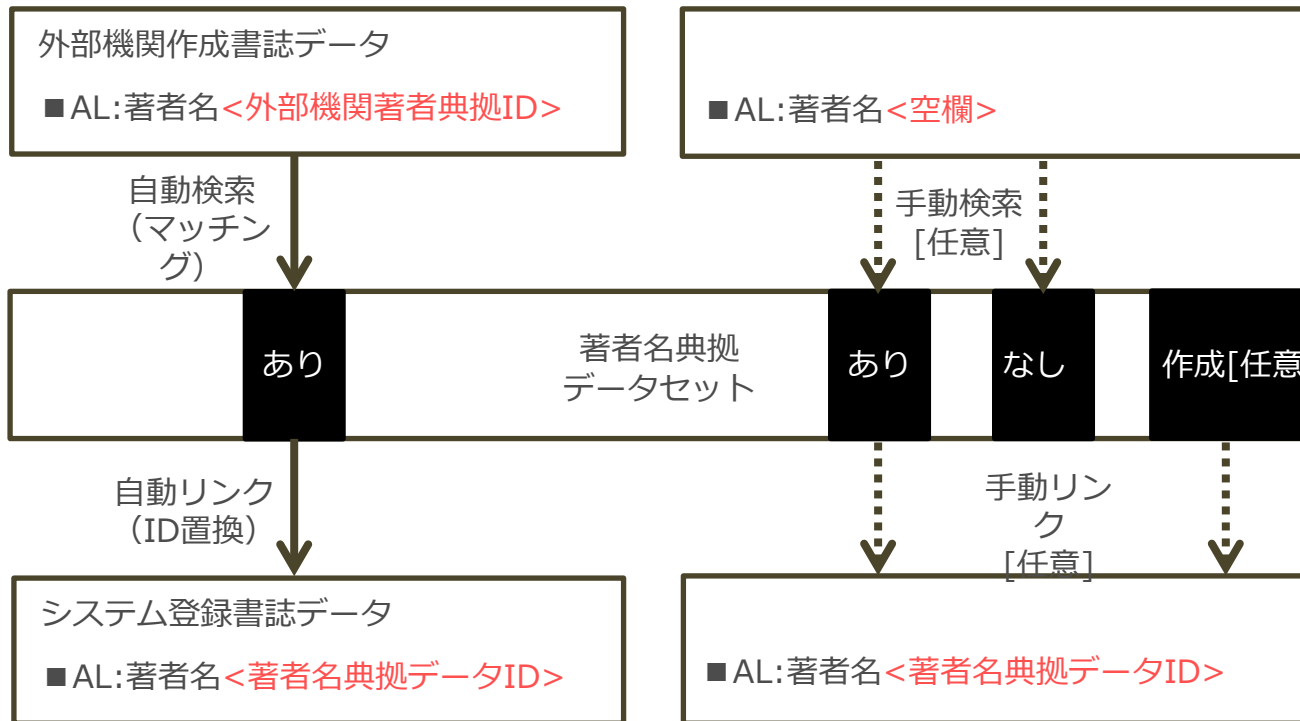
- システム登録書誌データ
  - 外部機関作成著者名典拠IDを含む書誌データについて，外部著者名典拠IDで著者名典拠データセットとマッチングをおこない，対応するIDを持つ著者名典拠データセットのデータと当該書誌データの**自動リンク**を行う
  - 外部機関作成著者名典拠IDを含まない書誌データは自動リンクは実施しないが，手動リンクは可能

## 著者名典拠データと書誌データの自動リンク

- 参加館登録書誌データ
  - 著者名典拠データセットに典拠データが存在する場合は、書誌データと典拠データの手動リンクを従来どおり可能とする
  - 著者名典拠データセットに典拠データが存在しない場合は、参照MARCデータをコピーしての登録、あるいは著者名典拠データを新規登録することにより、従来どおりの手動リンクを可能とする
- 既存書誌データ
  - 遡及的な自動リンクは実施しないが、手動リンクを可能とする

## 著者名典拠データリンク形成

### システム登録



# 補足 | CiNii BooksとVIAFの連携

CiNii 日本の論文をさがす 大学図書館の本をさがす 日本の博士論文をさがす 新規登録 ログイン English

図書・雑誌検索 著者検索 内容検索

著者名 検索



村上, 春樹  
ムラカミ, ハルキ

ID:DA00365644

- 別名 Murakami, Haruki  
Μουρακαμι, Χαρουκι  
Мураками, Харуки  
Murakami, Kharuki  
Мураками, Харуки  
Murakami, Kharuki  
무라카미, 하루키  
מורקמי, הרוקי  
موراكامي, هاروكي  
Մուրակամի, Հարուկի  
મુરાકામી, ઇરુકી  
村上, 春樹 (ムラカミ, ハルキ)  
মুরাকামি, হারুকি

同姓同名の著者を検索

検索結果: 1,246件中 1-20 を表示

1 2 3 4 5 6 ... 63 >

すべて選択: 新しいウィンドウで...  20件ずつ表示 出版年: 新しい順

読み放題!

この著者を外部サイトでさがす

- VIAF
- 研究者リゾルバー
- J-GLOBAL
- researchmap
- Google Scholar
- Google
- Yahoo! JAPAN

関連著者

- Rubin, Jay
- 小沢, 征爾
- Chandler, Raymond
- 柴田, 元幸
- 川上, 未映子
- Gabriel, J. Philip
- Nichols, John Treadwell
- 原, 民喜
- 武田, 泰淳
- 山川, 方夫
- 三木, 卓
- 林, 京子
- 遠藤, 周作
- 大岡 昇平

# 補足 | CiNii BooksとVIAFの連携

## VIAF

Virtual International Authority File

### Search

Select Field:

All Headings

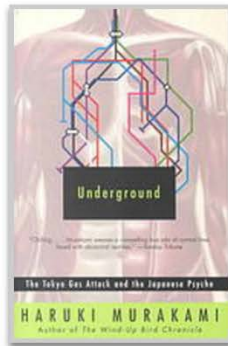
Select Index:

All VIAF

Search Terms:

haruki murakami

Search



Murakami, Haruki, 1949-....

村上, 春樹, 1949-

村上, 春樹

무라카미 하루키 1949-

村上, 春樹 1949 January 12- xA

Murakami, Haruki

Мураками, Х. 1949- Харуки

Мураками, Харуки, 1949-

1949, מורקמי, הרוקי,

VIAF ID: 108238901 (Personal)

Permalink: <http://viaf.org/viaf/108238901>

ISNI: [0000 0001 2146 8778](https://www.isni.org/0000-0001-2146-8778)

### Preferred Forms

200 \_ 1 [⌘a Murakami ⌘b , Haruki](#)

200 \_ | [⌘a Murakami ⌘b Haruki ⌘f 1949-....](#)

100 1 \_ [⌘a Murakami, Haruki](#)

100 1 \_ [⌘a Murakami, Haruki](#)

100 1 \_ [⌘a Murakami, Haruki ⌘d \(1949-\).](#)

100 1 \_ [⌘a Murakami, Haruki ⌘d 1949-](#)

100 1 0 [⌘a Murakami, Haruki ⌘d 1949-](#)





# CiNii BooksとVIAFの連携

## VIAF Contributors

 [Library of Congress/NACO](#)

National Library of Mexico

British Library

National Agricultural Library (U.S.)

National Library of Medicine (U.S.)

National Library of New Zealand

National Library of Scotland

National Library of South Africa

National Library of Wales

 [German National Library](#)

 [National Library of France](#)

 [National Library of Sweden](#)

 [National Library of Australia](#)

 [National Library of Spain](#)

 [National Library of Portugal](#)

 [Central Institute for the Union Catalogue of the Italian libraries](#)

 [National Library of the Czech Republic](#)

 [National Library of Israel](#)

Israel Museum

 [Library of Alexandria, Egypt](#)

 [Vatican Library](#)

 [Swiss National Library](#)

 [Library and Archives Canada](#)

 [Union List of Artist Names \[Getty Research Institute\]](#)

 [NUKAT Center of Warsaw University Library](#)

 [National Széchényi Library, Hungary](#)

 [RERO - Library Network of Western Switzerland](#)

 [Sudoc \[ABES\], France](#)

 [Flemish Public Libraries](#)

 [National Library of Russia](#)

 [National Library of the Netherlands](#)

 [BIBSYS](#)

 [National Library of Norway](#)

 [DBC \(Danish Bibliographic Center\)](#)

Danish Agency for Culture

 [National Diet Library, Japan](#)

 [NII \(Japan\)](#)

 [National Library Board, Singapore](#)

 [National Library of Latvia](#)

 [National Library of Poland](#)

 [National Library of Catalonia](#)

 [Lebanese National Library](#)

 [Perseus](#)

 [Syriac Reference Portal](#)

 [Wikidata](#)

 [ISNI](#)

 [National Library of Ireland](#)

 [National and University Library in Zagreb](#)

 [National Central Library, Taiwan](#)

 [National Library and Archives of Québec](#)

 [National Library of Korea](#)

 [National Library of Luxembourg](#)

 [National Library of Chile](#)

 [National Library of Morocco](#)

 [xA xA Extended Authorities](#)

 [xR xR Extended Relationships](#)

## 書誌管理作業の軽量化

- レコード調整の廃止および「修正作業の区分」\*の見直し
- 並立書誌データ, 重複書誌データの再定義
- 重複書誌データの統合

### 並立書誌データ

同一資料に対する複数書誌データ。由来の相違のほか、現行基準において作成館に問い合わせを必要とする書誌事項の相違などにより存在が許容される。

### 重複書誌データ

書誌の同定に必要な項目が全く同一の書誌データ。統合対象となる。

\*現行の「修正作業の区分」（コーディングマニュアル 第21章 図書書誌レコード修正 21.1.b 修正事項一覧）



## レコード調整は廃止し，修正項目を「発見館修正可」と「修正不可（＝別書誌作成）」に分ける

データ種別 修正箇所	既存 書誌データ	システム登録 書誌データ	参加館登録 書誌データ
書誌構造(VOL) の変更	変更しない		
発見館修正可 の項目	修正できる	修正できる	修正できる
上記以外の項目	別書誌作成	別書誌作成	別書誌作成

システム登録書誌データのうち，参加館によって修正された書誌データの扱い

・MARCデータが更新された場合

(1)「修正」更新データ: 上書きしない

(2)「削除」更新データ: 所蔵がない場合は該当書誌を削除する  
所蔵がある場合は元のMARCのIDのみ削除する

# NACISIS-CAT実施方針A 並立書誌データと重複書誌データ

並立/重複 の判断	既存 書誌データ	システム登録 書誌データ	参加館登録 書誌データ
並立	A	A	
並立		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">JP A</div> <div style="text-align: center;">TR C A</div> </div>	
重複*	A		A
重複*		A	A
重複*			<div style="text-align: center;">A</div> <div style="text-align: center;">A</div>

\*ただし修正作業の区分により先に存在する書誌データの修正が不可であるために、新たに別書誌データを作成した場合は、重複としない。

# NACSIS-CAT詳細案 重複書誌データの統合

データ種別	既存書誌データ	システム登録書誌データ	参加館登録書誌データ
既存書誌データ	(統合する)	統合しない	既存書誌データへ統合する
システム登録書誌データ		統合しない	システム登録書誌データへ統合する
参加館登録書誌データ			先に登録された参加館書誌データへ統合する

\*稀覯本(和漢古書等の記述対象資料毎に書誌データを作成するもの等)は統合しない。

## 運用ルール

- システム登録書誌データ導入にともなう見直し
  - 所蔵がない書誌データの許容
  - 異なる目録規則に準拠して作成された書誌データの許容
- 新規作成時に準用する目録規則の移行（RDA, 新NCR）
- 「目録情報の基準」やコーディングマニュアル等の見直し
- 書誌データ等の入力のためのガイドラインの整備
- 研修体制の整備

## 書誌利用に求められる機能

- NACSIS-ILL
  - 書誌検索時に並立書誌データを名寄せ書誌データとして提供
  - 名寄せ後の書誌データのそれぞれの所蔵情報も一括して提供
  - VOLフィールドの巻号部分を検索や絞り込みの対象とする
  - 所蔵なし書誌データは検索及び表示の対象としない
- CiNii Books
  - 書誌検索時に並立書誌データを名寄せ書誌データとして提供
  - 名寄せ前のNCIDによって検索した場合でも、名寄せ後の書誌情報を表示

**平成29年度以降に検討**

## 2.2 「名寄せ」による重複書誌データの管理

外部機関作成書誌データの事前登録や書誌データのフラット化，新規書誌データの作成の結果，**同一資料に対して複数書誌データが存在する場合でも**，CiNii，NAICSIS-ILL等「書誌利用（検索）機能」時に，**機械的な「名寄せ」\***を行うことで，統合的な検索環境を実現する。

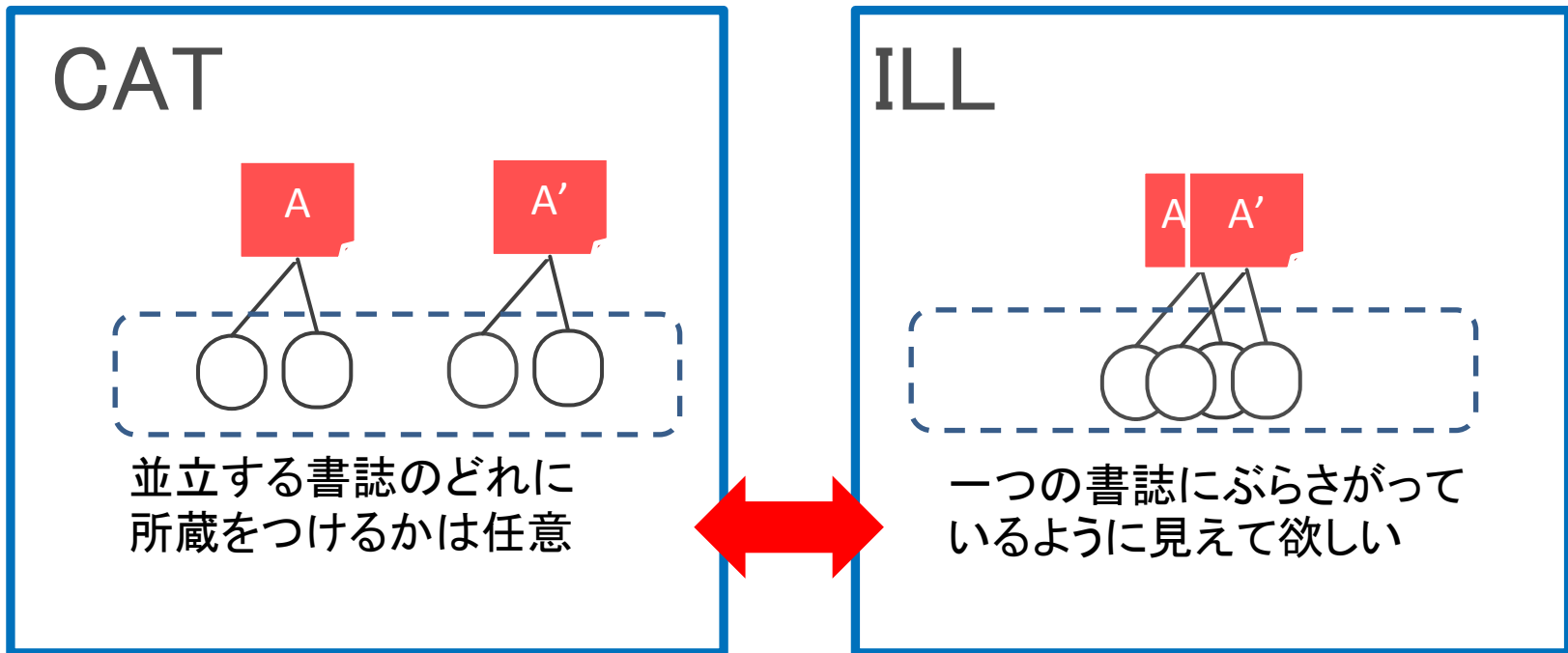
\*「名寄せ」：タイトルや出版者など，主たる項目のデータを比較し，同一書誌を表現していると判断されるものについて，グループとしてのまとまりを作るまたは統合する機能。**CiNii Articles で実装・運用済**。

利用者からのフィードバック機能が必要（名寄せすべきところできていない、もしくは名寄せすべきでないところを名寄せ等について利用者からの意見をフィードバックする）

# NACSIS-CAT実施方針 B NACSIS-ILLで書誌データを どう見せるか

- 書誌利用時には、同一資料の所蔵は、並立する書誌の所蔵が一覧できて欲しい（所蔵が並立書誌に分散している状態は、依頼館選択の作業効率が著しく落ちる）。
- しかし、必要に応じて、元の書誌も参照したい。

※ どのように表示するかは平成29年度に検討



## NACISIS-CATが備えるべき要件

- 通信プロトコル
  - 各図書館システムとの通信プロトコルは、CATPを維持
  - スキーマバージョンの追加は実施するが、既存のスキーマバージョンも維持
- 書誌作成業務
  - 現行の図書館システムの書誌作成機能での対応を想定
  - 書誌構造のフラット化に伴う書誌入力方針の変更は、入力ルールの変更により対応
- 書誌構造リンク
  - 現行の図書館システムと同様の親書誌データへの手動リンクを維持するが、親書誌データへのリンク形成は必須としない



## NACISIS-ILL

- 名寄せ書誌の利用
  - ILLでは名寄せ後の書誌及び所蔵を提供
  - 当面は現行の図書館システムのILLクライアントでの対応を前提とするため、書誌作成システムとは別に、現行のILLクライアントでの業務用に、名寄せ処理済み書誌のデータベースを用意する等の措置を講ずる
- 接続サーバの切り替え
  - 書誌作成業務とILL業務で接続先サーバの切替が必要となる場合は、参加館・図書館システムベンダーと仕様について検討

## CiNii Books

- 名寄せ書誌の利用
  - CiNii Booksでは名寄せ後の書誌及び所蔵を提供
- 名寄せ前NCIDでの検索
  - CiNiiのWebサイトのみでなく, APIでも名寄せ前のNCIDによるアクセスを保証

## その他

- 情報の開示
  - 技術情報及び開発のロードマップは迅速に開示する
- テスト環境の提供
  - 2018年度中にテストサーバーを構築し，各図書館システムベンダーとの連携テストを開始
- 図書館システムベンダーとの情報交換
  - 実装にあたっては，各図書館システムベンダーとの情報交換を行い，図書館システムへの影響を最小限にとどめるよう，十分に仕様を検討する

**平成29年度以降に詳細検討**

## 図書館システムへの影響（未検証）

- 検索用インデクスの見直し(VOL, PTBL)
- 所蔵登録対象書誌データの優先順位（手動登録, 自動登録）
- NACSIS-CATデータ更新時の図書館システムへの反映方法
- OPAC検索時の名寄せ結果の活用方法
- 検索専用CATPサーバとCiNii Books
- 統合的発見環境 …
- ローカル書誌作成・所蔵登録基準
- 所蔵登録のタイミングと業務フロー
- 所蔵自動登録の活用による効率化

# 図書館サービスへの影響（未検証）

---

- VOL積み中止のローカルOPAC表示への影響→情報リテラシーへの影響
- . . . . .

---

# 6. 今後に向けて

# 今後に向けて

## 平成29年度以降の予定

- 平成29年度

1. 説明会開催

- ・ 地域での説明会 → 「対話」による「相互理解と参加者意識再喚起」

2. 運用ルールの検討

- ・ 「目録情報の基準」等 → 運用フローの大幅な変更

3. システム連携に関する技術資料の提示

4. ベンダーとの調整 → システム的にはソフトランディングを  
目指してはいるが・・・

- 平成30年度

1. 書誌作成単位の新基準（ガイドライン）提案

2. パブコメ

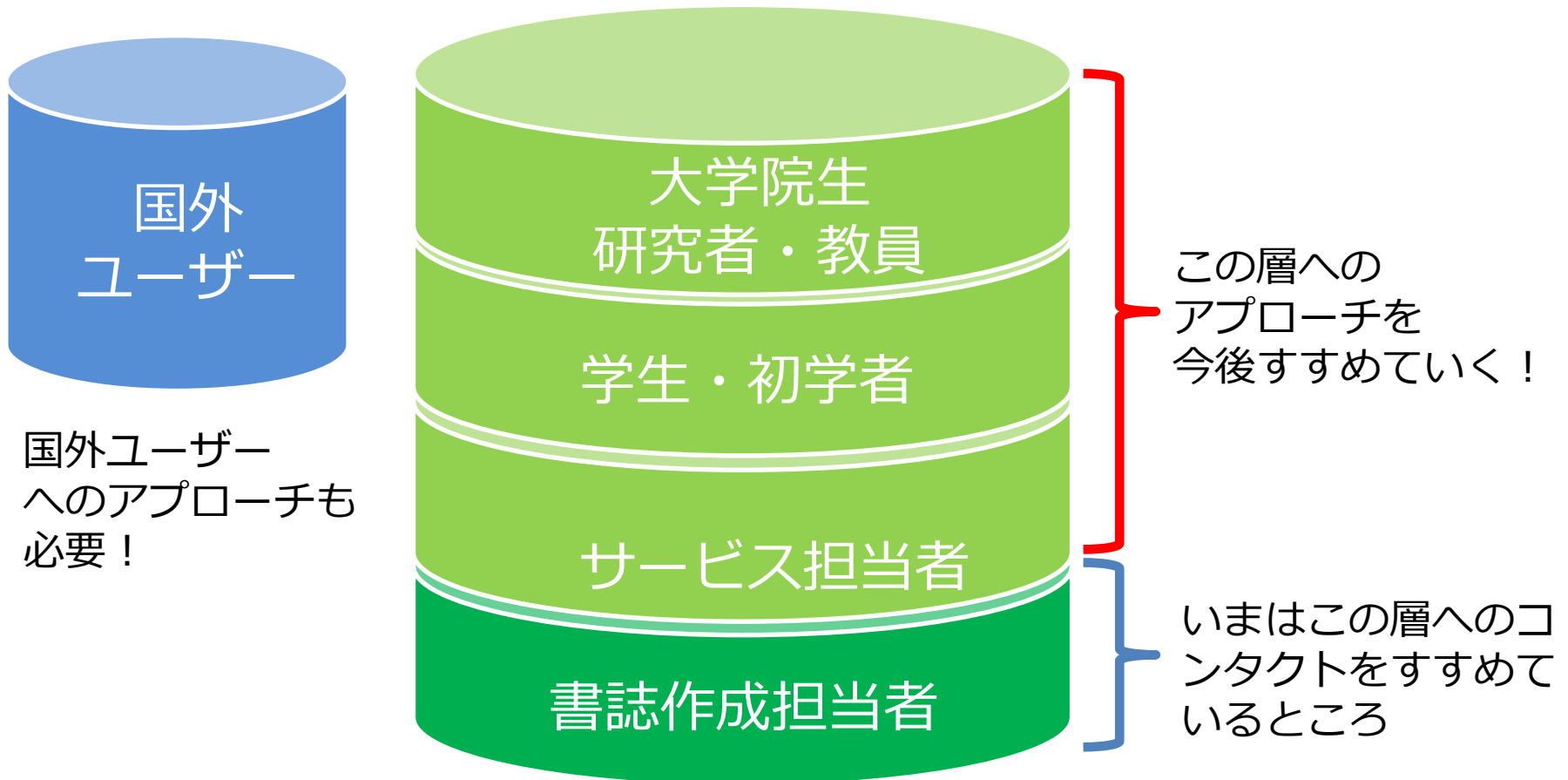
# 今後に向けて

		2016年度(H28)				2017年度(H29)				2018年度(H30)				2019年度(H31)				2020年度(H32)					
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
	方針等	基本方針案策定 これから委 6月	基本方針案承認 推進会議 7月	詳細案策定① これから委 10月	詳細案策定② これから委 1月 詳細案検討 推進会議 2月		推進会議 7月		推進会議 2月		推進会議 7月		推進会議 2月		推進会議 7月		推進会議 2月		推進会議 7月		推進会議 2月		
CAT	NII側のシステム	要件定義				要件定義・開発												CAT2020スタート (並行稼働の場合は5年程度を目 安とする)					
	運用									書誌作成単位の新基準(ガイドライン)提案	(以降、運用に関する変更案を 順次提示)												
	参加館側のシステム (ベンダーとの調整)						システム連携に関する技術資料の提示	ベンダーとの調整				テスト											
	参加館への周知	意見招請					説明会等			パブコム				説明会等		研修等							
ILL	NII側のシステム					要件定義・開発 (CATの変更に伴うもの)				CAT2020に対応した変更													
	運用													CATの変更に伴うILL運用マニュアル提案									
	参加館側のシステム (ベンダーとの調整)						システム連携に関する技術資料の提示	ベンダーとの調整				テスト											
	参加館への周知									パブコム				説明会等		研修等							



# ユーザーのカテゴリー

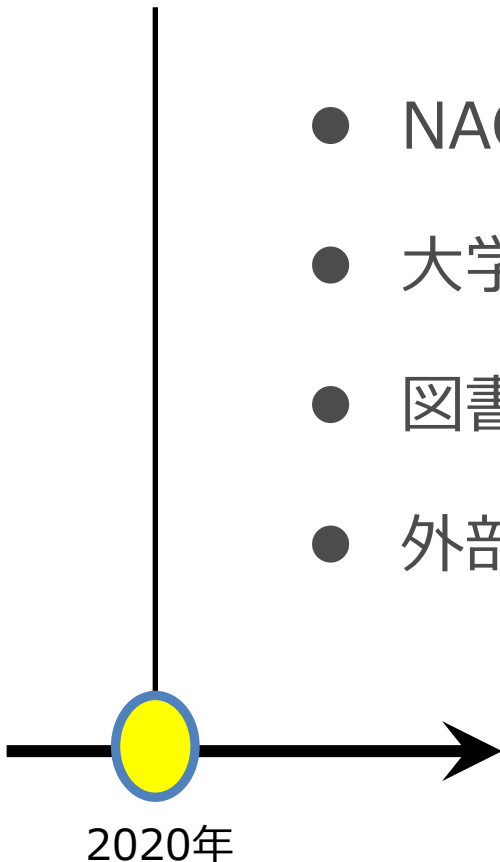
平成29年度は「対話」による「相互理解と参加者意識再喚起」



# 今後に向けて

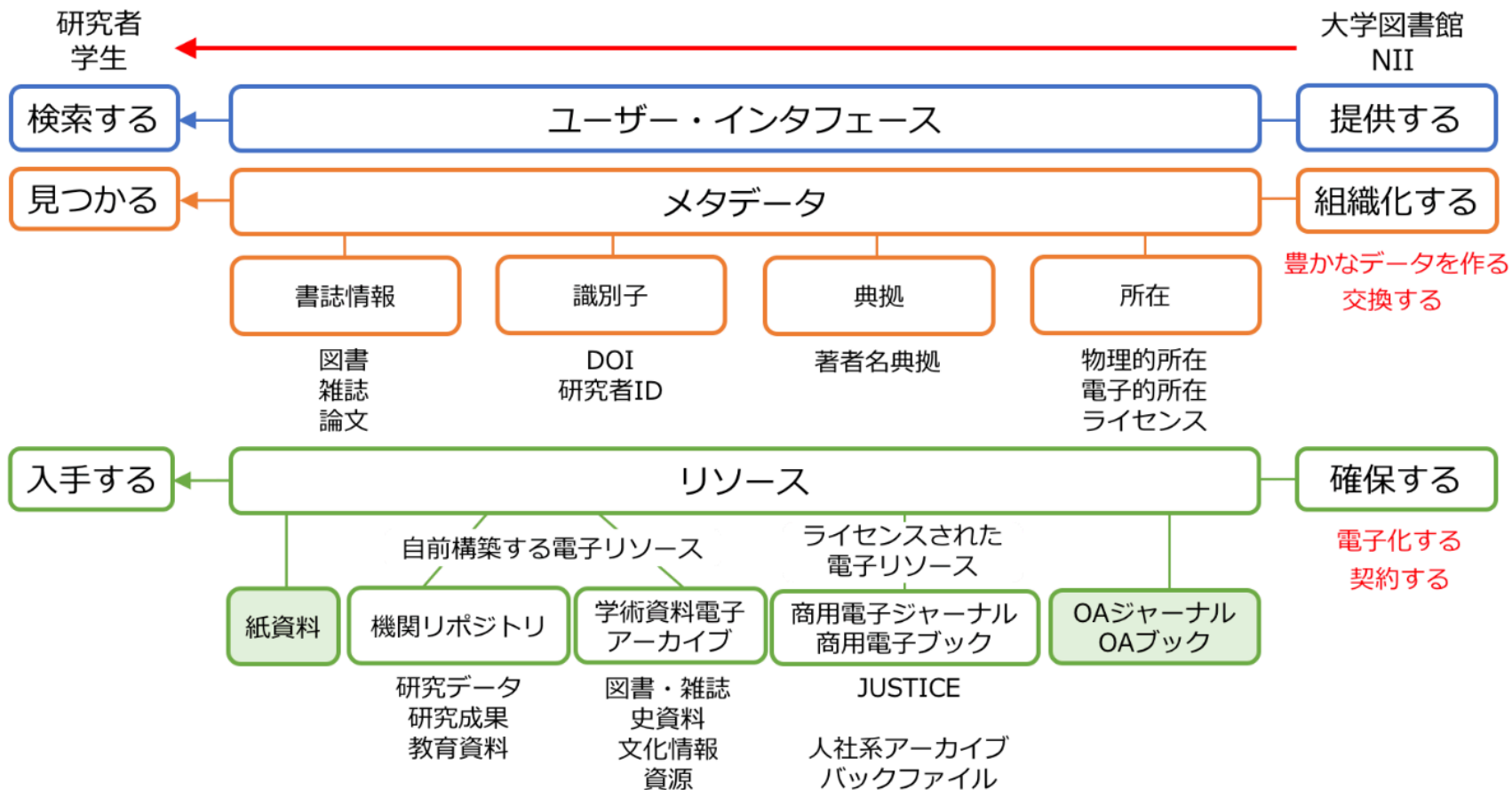
## CAT2020は通過点

- NACSIS-CAT/ILLの在り方
- 大学図書館の業務の在り方
- 図書館システムの在り方
- 外部とのさらなる連携



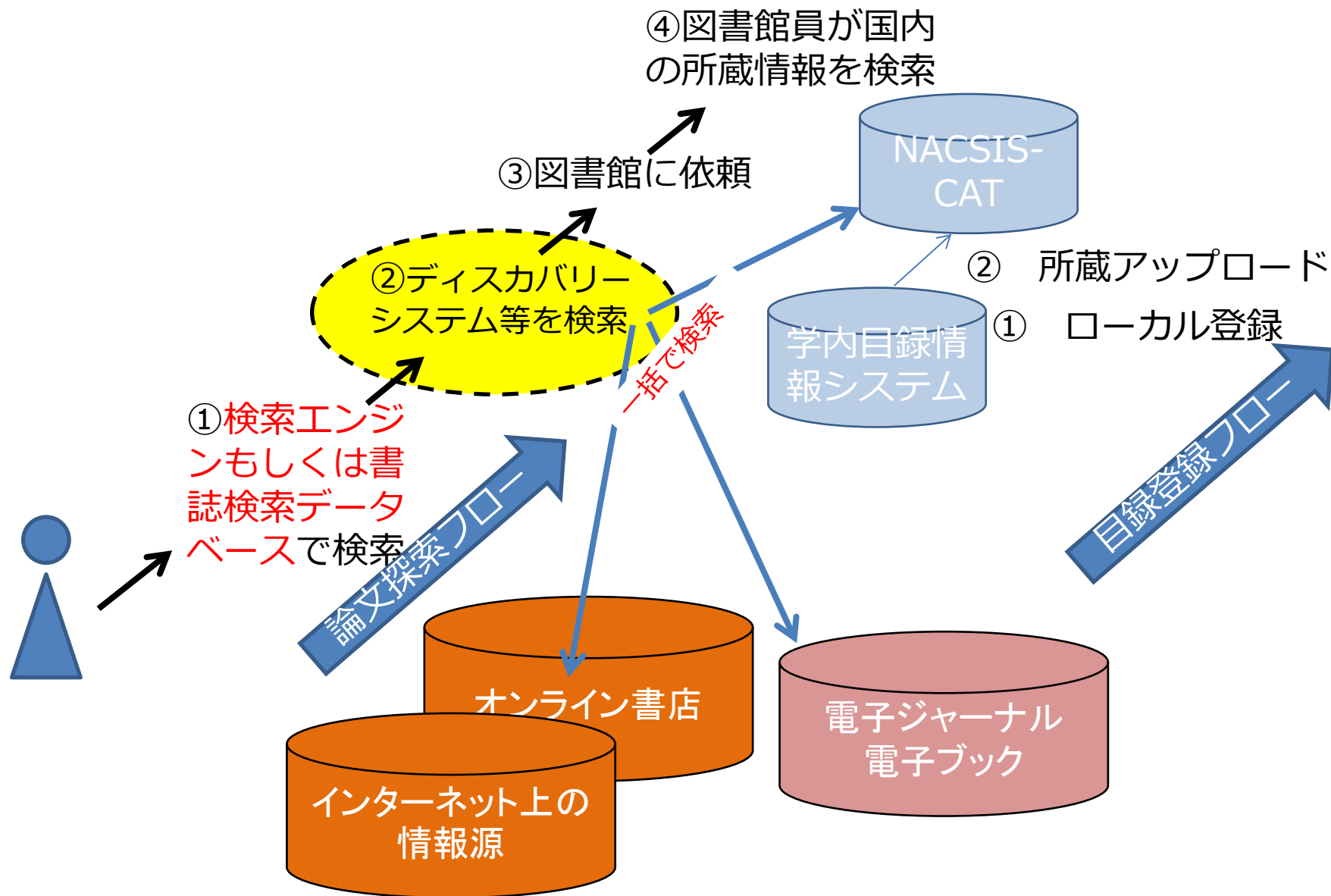
# 統合的発見環境の実現

## データを組み合わせてサービスをつくる



細川聖二. 情報システムから見たNACSIS-CAT/ILLの課題(第102回全国図書館大会)より抜粋  
[http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/jla\\_hosokawa\\_20161016.pdf](http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/jla_hosokawa_20161016.pdf)

# ディスカバリーシステム等への情報集約をいかに進めるか？



# 利用できる電子リソースは二つに分かれる

- 契約している商用電子ジャーナル・商用電子ブック

課題：ライセンス情報の効率的な管理

【機関内】 個々のコンテンツへの適切なナビゲート

【機関外】 ILLのための他機関との共有

- オープンアクセスの電子リソース

課題：ナビゲーションツールへのアクセス情報の提供

※ 公開しただけでは、ナビゲーションツールに載らない！

電子リソースデータ共有作業部会の検討課題

# ERDB-JPへの協力依頼

## ERDB-JP

Electronic Resources Database-JAPAN

HOME

概要

コンテンツ

パートナー

ドキュメント

お問い合わせ

日本の電子リソースを世界へ

14,877 Titles, 55 Partners

ERDB-JPは、大学・出版社・ナレッジベースベンダーが協力して構築する、日本で刊行された電子リソースのデータ共有サービスです。

サイト内に登録されたデータはCC0 1.0 Universalの下に提供されています。

データの検索・閲覧・エクスポートおよび新規登録・修正・削除依頼はどなたにでも行っていただけます。

# ERDB-JPとは

---

- 日本におけるOAジャーナルのタイトルや公開範囲、URLなどを集約したデータベースです
- 2017年8月8日現在で14,895タイトルが収録されています
- メタデータの登録やメンテナンスは、パートナー57機関によって自律的に行われています

# ERDB-JPとは

---

- 登録されたデータは、エクスポート機能を利用して出力し、各機関のOPACで利用いただくことも可能です
- 登録されたデータは、“Freely Accessible Japanese Titles ”というパッケージ名でリンクリゾルバのベンダーにも共有されています



# こんな感じで世界中で使えるようになります



BAKER

佛教大学および学術団体刊行の雑誌論文・目録を検索  
佛教大学論文目録リポジトリ

更新日：2017年08月02日 件数：8,751件

図書館関連サイト

BUKKYO UNIVERSITY LIBRARY  
お気軽検索

源氏物語への回路：伊勢物語第六段の再検討から

著者： 登朗, 山本  
ジャーナル： 京都語文  
ISSN： 1342-4254  
日付： 2016/11/26  
号 23 ページ： 50-66

Freely Accessible Japanese Titles ⓘ ▲  
2009 - 現在  
版または巻の番号でオンラインジャーナルをブラウズして、このアイテムを探します。

他に利用可能なオンラインのソース：  
別のソースを参照 ▼

さらにヘルプが必要な場合 ▲  
文献複写を依頼する  
※この機能は専任教職員、通学課程、通信教育課程の在学生の方のみご利用いただけます  
※ご利用に際しては、ページ数と巻号データを充分お確かめ下さい  
データをエクスポート

簡易検索 詳細検索

検索

すべて 本文あり > 雑誌一覧

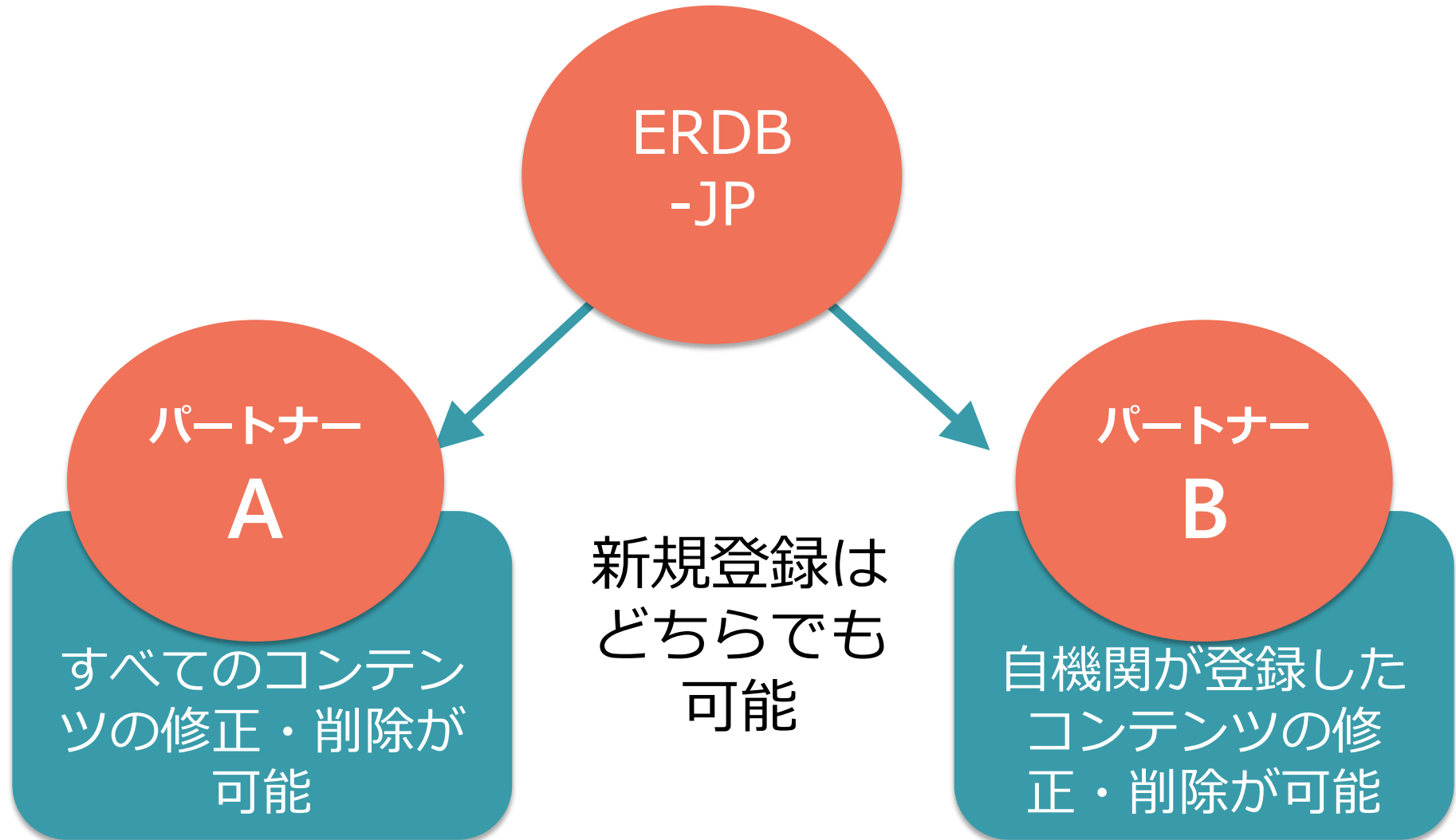
雑誌名 > 京都語文  
京都語文 / 佛教大学国語国文学会  
ISSN : 13424254 , NCID : AN10591104

24, 学科創設五十周年記念

23



# ぜひパートナーとして世界発信にご協力を!



## 学術情報基盤の課題（みすみが考えていること）

### ○多様な目録規則・メタデータとの連携による多様な媒体とのシームレスな連携の実現

- ・電子媒体と紙媒体のリンクの実現にむけたERDBとの連携の検討
- ・新NCRへの対応、RDA、BIBFRAME、・・・
- ・ナレッジベース活用にむけたKBARTへの対応
- ・機関リポジトリとの連携にむけたメタデータ対応。
- ・OAI-PMH等の新しいプロトコルへの対応の検討

### ○ILLシステムの高度化

- ・電子ジャーナル、電子ブックのライセンス管理とILL活用
- ・書誌データベースからILLシステムへのダイレクトな書誌流用・発注

### ○著者名典拠ファイルの発展と種々の人名データベースとの相互連携

- ・VIAFとの連携
- ・種々の研究者識別子と研究者リゾルバ
- ・CRISへの活用の可能性
- ・CRedit、ISNI等による研究者情報のリッチ化

いずれはこういう環境を提供できるようになりたい（みすみの夢）

「大学に入学すると、学生は学生IDとパスワードを渡される。そのIDを用いて、大学サービスのポータルサイトにアクセスする。そこから、スマホ用、タブレット用のアプリ、PC用の大学サービスの統合アプリがダウンロードできる。

そのアプリからシラバスを見て講義の内容をチェックしてみる。実際に仮受講してみて、正式に受講しようと思ったら、やはりアプリから登録する。それぞれの授業の、資料の電子的な配布や連絡、さらにはレポートの提出や小テストも、そのアプリ上で行われる。参考資料もアプリから図書館へとリンクされているので、電子ブックであれば、そのままアクセスして、スマホ、タブレット、もしくはPCで読むことができる。紙媒体の本であれば、図書館の所蔵、配架場所、貸出状況の状況が表示される。もちろん、キーワードから図書や論文を検索することもできるし、連想検索で、関連した内容の資料も広く収集することができる。過去にダウンロードしたデータや、読書メモもそこで記録することができる。図書館内にはない文献であれば、ILLのオーダー画面にシームレスに移行できるし、オンライン書店にも移り、購入することもできる。PPVで論文を購入、ダウンロードすることもできる。また、図書館への購入リクエストフォームにもシームレスに移行できる。電子テキストを紙媒体でも欲しい場合は、図書館のPODコーナーに行き、プリント/製本することができる。」